

(様式第 10)

国がん発 第 251-1 号
平成 29 年 10 月 2 日

厚生労働大臣 加藤 勝信 殿

国立研究開発法人国立がん研究センター
理事長 中釜 斉 (印)

国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1
氏 名	国立研究開発法人国立がん研究センター

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院

3 所在の場所

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1	電話(03)3542-2511 (代表)
--------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input checked="" type="checkbox"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無		
内科と組み合わせた診療科名等			
<input checked="" type="checkbox"/> 1 呼吸器内科	<input checked="" type="checkbox"/> 2 消化器内科	<input checked="" type="checkbox"/> 3 循環器内科	4 腎臓内科
5 神経内科	<input checked="" type="checkbox"/> 6 血液内科	7 内分泌内科	8 代謝内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科		11 リウマチ科
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 (1)呼吸器外科 (2)消化器外科 (3)乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 6心臓血管外科 7内分泌外科 (8)小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

(1)精神科 (2)小児科 (3)整形外科 (4)脳神経外科 (5)皮膚科 (6)泌尿器科 7産婦人科 8産科 (9)婦人科 (10)眼科 (11)耳鼻咽喉科 (12)放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 (15)麻酔科 16救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 3口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1緩和ケア内科	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
床	床	床	床	578床	578床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	191人	150人	298.8人	看 護 補 助 者	57人	診 療 エ ッ ク ス 線 技 師	0人
歯 科 医 師	3人	4人	4.9人	理 学 療 法 士	4人	臨 床 検 査 技 師	74人
薬 剤 師	52人	20人	67.4人	作 業 療 法 士	1人	衛 生 検 査 技 師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	1人	そ の 他	0人
助 産 師	0人	0人	0人	義 肢 装 具 士	0人	あ ん 摩 マ ッ サ ー ジ 指 圧 師	0人
看 護 師	606人	10人	613.3人	臨 床 工 学 士	9人	医 療 社 会 事 業 従 事 者	8人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	そ の 他 の 技 術 員	38人
歯 科 衛 生 士	3人	1人	3.8人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	194人
管理栄養士	8人	2人	9.5人	診 療 放 射 線 技 師	62人	そ の 他 の 職 員	132人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	15.77人	眼 科 専 門 医	1.10人
外 科 専 門 医	31.14人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	5.77人
精 神 科 専 門 医	6.00人	放 射 線 科 専 門 医	17.00人
小 児 科 専 門 医	4.77人	脳 神 経 外 科 専 門 医	4.77人
皮 膚 科 専 門 医	3.00人	整 形 外 科 専 門 医	3.00人
泌 尿 器 科 専 門 医	5.00人	麻 酔 科 専 門 医	6.60人
産 婦 人 科 専 門 医	7.28人	救 急 科 専 門 医	0人
		合 計	111.2人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (西田 俊朗) 任命年月日 平成 28 年 4 月 1 日

平成 25 年 8 月～平成 28 年 3 月まで、国立研究開発法人国立がん研究センター東病院病院長として、医療事故等防止対策委員会委員長の業務経験あり。
 平成 28 年 4 月以降、国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院病院長として、医療事故等防止対策委員会委員長の業務に携わっている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	535.7人	0人	535.7人
1日当たり平均外来患者数	1,353.6人	48.5人	1402.1人
1日当たり平均調剤数	入院：503.3剤 外来：110 剤		
必要医師数	135人		
必要歯科医師数	1人		
必要薬剤師数	18人		
必要（准）看護師数	314人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	216.7m ²	鉄骨構造	病床数	8床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	472.42m ²		病床数	39床
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	55.46m ²			
		[共用室の場合]	共用する室名			
化学検査室	662.9m ²	鉄骨構造	多項目自動血球分析装置、血液凝固測定装置、全自動免疫化学分析測定装置、全自動化学発光測定装置、生化学用自動分析装置、全自動薬物濃度測定装置、尿自動分析装置			
細菌検査室	161.04m ²	鉄骨構造	同定・薬剤感受性パネル自動測定装置、血液培養自動分析装置			
病理検査室	490.59m ²	鉄骨構造	自動染色装置、自動免疫染色装置、凍結切片作製装置、自動封入装置、密閉式自動固定包埋装置、対面作業用下降流プッシュプル型換気装置			
病理解剖室	142.15m ²	鉄骨構造	ホルマリン作製装置			
研究室	38,936.15m ²	鉄骨鉄筋コンクリート等	研究所棟、疫病ヒトゲノムセンター棟、中央病院内がん対策情報センター部室			
講義室	887.03m ²	鉄骨構造	室数	4室	収容定員	50～300人
図書室	376.64m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	9万冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	104.1%	逆紹介率	65.4%
算出根拠	A: 紹介患者の数		9,385人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		6,192人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		469人
	D: 初診の患者の数		9,469人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
大西 真	国立国際医療研究センター 病院長	○	特定機能病院の医療安全体制に精通	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
田島 優子	さわやか法律事務所 弁護士		法律関係に精通	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
眞島 善幸	NPO法人 パンキャンジャパン代表		患者団体の役員として医療問題に精通	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
荒井 保明	国立がん研究センター 理事長特任補佐		当院の前病院長として院内診療・医療安全管理体制を熟知	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1
長谷川 博	国立がん研究センター 統括事務部長		当院の統括事務部長として病院の体制・組織等に精通	<input checked="" type="radio"/> 有・無	3

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要 平成28年度は特になし		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		
医療技術名	取扱患者数	人
当該医療技術の概要		

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症		56	ベーチェット病	6人
2	筋萎縮性側索硬化症	1人	57	特発性拡張型心筋症	1人
3	脊髄性筋萎縮症		58	肥大型心筋症	
4	原発性側索硬化症		59	拘束型心筋症	
5	進行性核上性麻痺		60	再生不良性貧血	47人
6	パーキンソン病	14人	61	自己免疫性溶血性貧血	3人
7	大脳皮質基底核変性症		62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1人
8	ハンチントン病		63	特発性血小板減少性紫斑病	30人
9	神経有棘赤血球症		64	血栓性血小板減少性紫斑病	1人
10	シャルコー・マリー・トゥース病		65	原発性免疫不全症候群	5人
11	重症筋無力症	10人	66	IgA腎症	
12	先天性筋無力症候群		67	多発性嚢胞腎	
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎		68	黄色靱帯骨化症	
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー		69	後縦靱帯骨化症	4人
15	封入体筋炎		70	広範脊柱管狭窄症	
16	クドウ・深瀬症候群		71	特発性大腿骨頭壊死症	1人
17	多系統萎縮症	1人	72	下垂体性ADH分泌異常症	
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)		73	下垂体性TSH分泌亢進症	
19	ライソゾーム病		74	下垂体性PRL分泌亢進症	
20	副腎白質ジストロフィー		75	クッシング病	2人
21	ミトコンドリア病		76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	
22	もやもや病	2人	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	
23	プリオン病		78	下垂体前葉機能低下症	
24	亜急性硬化性全脳炎		79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	
25	進行性多巣性白質脳症		80	甲状腺ホルモン不応症	
26	HTLV-1関連脊髄症		81	先天性副腎皮質酵素欠損症	
27	特発性基底核石灰化症		82	先天性副腎低形成症	
28	全身性アミロイドーシス		83	アジソン病	
29	ウルリッヒ病		84	サルコイドーシス	13人
30	遠位型ミオパチー		85	特発性間質性肺炎	4人
31	ペスレムミオパチー		86	肺動脈性肺高血圧症	
32	自己貪食空胞性ミオパチー		87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	
33	シュワルツ・ヤンベル症候群		88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	
34	神経線維腫症	6人	89	リンパ脈管筋腫症	
35	天疱瘡		90	網膜色素変性症	2人
36	表皮水疱症		91	バッド・キアリ症候群	2人
37	膿疱性乾癬(汎発型)		92	特発性門脈圧亢進症	
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群		93	原発性胆汁性肝硬変	14人
39	中毒性表皮壊死症		94	原発性硬化性胆管炎	
40	高安動脈炎		95	自己免疫性肝炎	3人
41	巨細胞性動脈炎		96	クローン病	8人
42	結節性多発動脈炎		97	潰瘍性大腸炎	63人
43	顕微鏡的多発血管炎		98	好酸球性消化管疾患	
44	多発血管炎性肉芽腫症		99	慢性特発性偽性腸閉塞症	
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症		100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	
46	悪性関節リウマチ		101	腸管神経節細胞減少症	
47	パージャール病		102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	
48	原発性抗リン脂質抗体症候群		103	CFC症候群	
49	全身性エリテマトーデス	14人	104	コステロ症候群	
50	皮膚筋炎/多発性筋炎		105	チャージ症候群	
51	全身性強皮症		106	クリオピリン関連周期熱症候群	
52	混合性結合組織病	1人	107	全身型若年性特発性関節炎	
53	シェーグレン症候群	28人	108	TNF受容体関連周期性症候群	
54	成人ステル病		109	非典型型溶血性尿毒症症候群	
55	再発性多発軟骨炎		110	ブラウ症候群	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	161		家族性良性慢性天疱瘡	
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	162		類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	
113	筋ジストロフィー	163		特発性後天性全身性無汗症	
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	164		眼皮膚白皮症	
115	遺伝性周期性四肢麻痺	165		肥厚性皮膚骨膜炎	
116	アトピー性脊髄炎	166		弾性線維性仮性黄色腫	
117	脊髄空洞症	167		マルファン症候群	
118	脊髄髄膜瘤	168		エーラス・ダンロス症候群	
119	アイザックス症候群	169		メンケス病	
120	遺伝性ジストニア	170		オクシピタル・ホーン症候群	
121	神経フェリチン症	171		ウィルソン病	
122	脳表ヘモジデリン沈着症	172		低ホスファターゼ症	
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	173		VATER症候群	
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	174		那須・ハコラ病	
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	175		ウィーバー症候群	
126	ペリー症候群	176		コフィン・ローリー症候群	
127	前頭側頭葉変性症	177		有馬症候群	
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	178		モワット・ウィルソン症候群	
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	179		ウィリアムズ症候群	
130	先天性無痛無汗症	180		ATR-X症候群	
131	アレキサンダー病	181		クルーゾン症候群	
132	先天性核上性球麻痺	182		アペール症候群	
133	メビウス症候群	183		ファイファー症候群	
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	184		アントレー・ピクスラー症候群	
135	アイカルディ症候群	185		コフィン・シリス症候群	
136	片側巨脳症	1人	186	ロスムンド・トムソン症候群	
137	限局性皮質異形成	187		歌舞伎症候群	
138	神経細胞移動異常症	188		多脾症候群	
139	先天性大脳白質形成不全症	189		無脾症候群	
140	ドラベ症候群	190		鰓耳腎症候群	
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	191		ウェルナー症候群	
142	ミオクロニー欠伸てんかん	192		コケイン症候群	
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	193		プラダー・ウィリ症候群	
144	レノックス・ガストー症候群	194		ソトス症候群	
145	ウエスト症候群	195		ヌーナン症候群	
146	大田原症候群	196		ヤング・シンプソン症候群	
147	早期ミオクロニー脳症	197		1p36欠失症候群	
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	198		4p欠失症候群	
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	199		5p欠失症候群	
150	環状20番染色体症候群	200		第14番染色体父親性ダイソミー症候群	
151	ラスムッセン脳炎	201		アンジェルマン症候群	
152	PCDH19関連症候群	202		スミス・マギニス症候群	
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	203		22q11.2欠失症候群	
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	204		エマヌエル症候群	
155	ランドウ・クレフナー症候群	205		脆弱X症候群関連疾患	
156	レット症候群	206		脆弱X症候群	
157	スタージ・ウェーバー症候群	207		総動脈幹遺残症	
158	結節性硬化症	208		修正大血管転位症	
159	色素性乾皮症	209		完全大血管転位症	
160	先天性魚鱗癬	210		単心室症	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群		259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	
212	三尖弁閉鎖症		260	シトステロール血症	
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症		261	タンジール病	
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症		262	原発性高カイロミクロン血症	
215	ファロー四徴症		263	脳腫黄色腫症	
216	両大血管右室起始症		264	無βリポタンパク血症	
217	エプスタイン病		265	脂肪萎縮症	
218	アルポート症候群		266	家族性地中海熱	
219	ギャロウェイ・モワト症候群		267	高IgD症候群	
220	急速進行性糸球体腎炎		268	中條・西村症候群	
221	抗糸球体基底膜腎炎		269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	
222	一次性ネフローゼ症候群		270	慢性再発性多発性骨髄炎	
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎		271	強直性脊椎炎	
224	紫斑病性腎炎		272	進行性骨化性線維異形成症	
225	先天性腎性尿崩症		273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)		274	骨形成不全症	
227	オスラー病		275	タナトフォリック骨異形成症	
228	閉塞性細気管支炎	4人	276	軟骨無形成症	
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)		277	リンパ管腫症/ゴーハム病	
230	肺胞低換気症候群		278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	
231	α1-アンチトリプシン欠乏症		279	巨大静脈奇形(頸部口咽頭びまん性病変)	
232	カーニー複合		280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	
233	ウォルフラム症候群		281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)		282	先天性赤血球形成異常性貧血	
235	副甲状腺機能低下症	5人	283	後天性赤芽球癆	
236	偽性副甲状腺機能低下症		284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症		285	ファンconi貧血	
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症		286	遺伝性鉄芽球性貧血	
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症		287	エプスタイン症候群	
240	フェニルケトン尿症		288	自己免疫性出血病XIII	
241	高チロシン血症1型		289	クロンカイト・カナダ症候群	
242	高チロシン血症2型		290	非特異性多発性小腸潰瘍症	
243	高チロシン血症3型		291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	
244	メーブルシロップ尿症		292	総排泄腔外反症	
245	プロピオン酸血症		293	総排泄腔遺残	
246	メチルマロン酸血症		294	先天性横隔膜ヘルニア	
247	イソ吉草酸血症		295	乳幼児肝巨大血管腫	
248	グルコーストランスポーター1欠損症		296	胆道閉鎖症	
249	グルタル酸血症1型		297	アラジール症候群	
250	グルタル酸血症2型		298	遺伝性膀胱炎	
251	尿素サイクル異常症		299	嚢胞性線維症	
252	リジン尿性蛋白不耐症		300	IgG4関連疾患	
253	先天性葉酸吸収不全		301	黄斑ジストロフィー	
254	ポルフィリン症		302	レーベル遺伝性視神経症	
255	複合カルボキシラーゼ欠損症		303	アッシュヤー症候群	
256	筋型糖原病		304	若年発症型両側性感音難聴	
257	肝型糖原病		305	遅発性内リンパ水腫	
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症		306	好酸球性副鼻腔炎	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病		319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	β ーケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(7対1)	
・診療録管理体制加算2	
・医師事務作業補助体制加算1(100対1)	
・50対1急性期看護補助体制加算	
・看護職員夜間配置加算(16対1配置加算)	
・療養環境加算	
・重症者等療養環境特別加算	
・無菌医療室管理加算1	
・無菌医療室管理加算2	
・緩和ケア診療加算	
・がん拠点病院加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1+感染防止対策地域連携加算	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・呼吸ケアチーム加算	
・病棟薬剤業務実施加算1	
・病棟薬剤業務実施加算2	
・データ提出加算2イ	
・退院支援加算2	
・特定集中治療室管理料3	
・小児入院医療管理料4	
・入院時食事療養費(I)	
・歯科外来診療環境体制加算	
以上	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ポジトロン断層撮影
・がん患者指導管理料1	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・がん患者指導管理料2	・ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影
・がん患者指導管理料3	・CT撮影およびMRI撮影
・外来緩和ケア管理料	・大腸CT撮影加算
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・乳房MRI撮影加算
・外来リハビリテーション診療料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・外来放射線照射診療料	・外来化学療法加算1
・ニコチン依存症管理料	・無菌製剤処理料
・がん治療連携計画策定料	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)
・がん治療連携管理料	・運動器リハビリテーション料(Ⅱ)
・外来がん患者在宅連携指導料	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・薬剤管理指導料	・がん患者リハビリテーション料
・排尿自立指導料	・リンパ浮腫複合的治療料
・医療機器安全管理用1	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・医療機器安全管理用2	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・遺伝学的検査	・原発性悪性悪性脳腫瘍光線力学療法加算
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
・国際標準検査管理加算	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩廓清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩廓清を伴うもの))
・遺伝カウンセリング加算	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・内服・点滴誘発試験	・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)
・CT透視下気管支鏡検査加算	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・画像診断管理加算1	・腹腔鏡下肝切除術
・画像診断管理加算2	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	以上
・人工尿道括約筋植込・置換術	
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	
・輸血管理料 I	
・輸血適正使用加算	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・麻酔管理料(I)	
・麻酔管理料(II)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・定位放射線治療	
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
・画像誘導密封小線源治療加算	
・保険医療機関間の連携による病理診断	
・病理診断管理加算2	
・歯科口腔リハビリテーション料2	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	
・手術時歯根面レーザー応用加算	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
胆道がんに対する治療法の確立に関する研究	奥坂拓志	肝胆膵内科	15,521,000	補委 AMED がん研究課
がんの早期診断に資する新規のPET薬剤標識技術開発と普及に向けた自動合成装置の開発に関する研究	栗原宏明	放射線診断科	17,045,000	補委 AMED がん研究課
消化管がんに対する特異的蛍光内視鏡の開発とその臨床応用にに向けた研究	斎藤豊	内視鏡科	33,698,000	補委 AMED がん研究課
切除不能進行・再発胃がんに対する個別化治療と最適化標準治療に関する研究	岩佐悟	先端医療科	30,500,000	補委 AMED がん研究課
直腸癌側方骨盤リンパ節転移の術前診断の妥当性に関する観察研究	志田大	大腸外科	19,000,000	補委 AMED がん研究課
成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立およびゲノム解析に基づく治療法の最適化に関する研究	福田隆浩	造血幹細胞移植科	68,872,884	補委 AMED がん研究課
超高齢者社会における治療困難な高齢切除不能進行再発大腸癌患者に対する標準治療確立のための研究	濱口哲弥	消化管内科	15,912,000	補委 AMED がん研究課
トレーサビリティの確保された線源と画像誘導を利用した高線量率小線源治療の標準化と高度化の研究	伊丹純	放射線治療科	10,000,000	補委 AMED がん研究課
外科手術手技の客観的評価と科学的根拠に基づいた標準治療開発のための多施設共同第三相無作為化試験の確立	島田和明	肝胆膵外科	12,500,000	補委 AMED がん研究課
非浸潤または小型非小細胞肺癌に対する標準的機能温存手術の確立に関する研究	渡辺俊一	呼吸器外科	14,600,000	補委 AMED がん研究課
患者のQOL向上をめざした胃がんに対する低侵襲標準治療確立に関する多施設共同試験	森田信司	胃外科	30,500,000	補委 AMED がん研究課
最新のIVRによる症状緩和についての研究	荒井保明	放射線診断科	34,000,000	補委 AMED がん研究課
がん治療に伴う皮膚変化の評価方法と標準的ケアの確立に関する研究	野澤桂子	アピアランス支援室	10,000,000	補委 AMED がん研究課
高齢者多発性骨髄腫患者に対する至適分子標的療法の確立と治療効果および有害事象を予測するバイオマーカーの探索的研究	丸山大	血液腫瘍科	26,560,000	補委 AMED がん研究課
眼部希少がんの発生・多様性獲得機構の「鍵となる」分子・分子経路の特定と、二次がん発生のサーベイランス体制の確立	鈴木茂伸	眼腫瘍科	26,950,000	補委 AMED がん研究課
難治急性リンパ性白血病に対するボルテズミブ追加多剤併用療法の国内導入(医師主導治験)	小川千登世	小児腫瘍科	103,464,000	補委 AMED がん研究課
予後不良の神経膠腫に対する標準治療の確立と希少癌組織のバイオバンクを目的とした多施設共同研究	成田善孝	脳脊髄腫瘍科	20,889,000	補委 AMED がん研究課
消化器神経内分泌癌に対する標準治療の確立に関する研究	森実千種	肝胆膵内科	79,059,000	補委 AMED がん研究課
側方骨盤リンパ節転移陽性の難治性下部直腸癌の予後改善を目指した治療法に関する研究	岩佐悟	先端医療科	22,620,000	補委 AMED がん研究課
胸腺癌、胸腺腫に対する抗PD-1抗体ニボルマブ適応拡大のための研究	堀之内秀仁	呼吸器内科	96,710,000	補委 AMED がん研究課
局所進行食道癌に対して、治療の有効性向上を目指した新しい術前治療を確立する研究	加藤健	消化管内科	19,000,000	補委 AMED がん研究課
EGFR遺伝子変異陽性進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するゲフィチニブ単剤治療とゲフィチニブにシスプラチン+ペメトレキセドを途中挿入する治療とのランダム化比較試験(JCOG1404/WJOG8214L:AGAIN)	大江裕一郎	呼吸器内科	19,998,000	補委 AMED がん研究課
眼部腫瘍の全国症例登録システムの構築に関する研究	鈴木茂伸	眼腫瘍科	15,600,000	補委 AMED がん研究課
自己培養上皮細胞シート製品およびコンベネーション製品を用いた食道再生治療の治験実施に関する研究	斎藤豊	内視鏡科	25,200,000	補委 AMED 再生医療研究課
切除不能大腸がんに対するレンパチニブの医師主導治験の治験調整管理に関する研究	岩佐悟	先端医療科	1,435,941	補委 AMED 日本医師会
治療抵抗性再発・転移性のトリプルネガティブ乳癌に対するOlaparibと化学療法との併用療法の開発	米盛勲	乳腺・腫瘍内科	546,000	補委 AMED 日本医師会
治験の実施に関する研究[レンパチニブ]	岩佐悟	先端医療科	312,000	補委 AMED 日本医師会
切除不能または再発胸腺癌に対するレンパチニブの多施設共同第II相試験	山本昇	先端医療科	27,940,521	補委 AMED 日本医師会
早期乳がんに対するイメージガイド下ラジオ波熱焼灼療法の標準化に係る多施設共同研究	木下貴之	先端医療科	28,000,000	補委 AMED 臨床研究課
がん領域Clinical Innovation Network事業による超希少がんの臨床開発と基盤整備を行う総合研究	米盛勲	乳腺・腫瘍内科	69,425,249	補委 AMED 臨床研究課
8Kスーパーハイビジョン技術を用いた新しい内視鏡(硬性鏡)手術システムの開発と高精細映像データの利活用	金光幸秀	大腸外科	59,000,000	補委 AMED医療機器 研究課
性差に基づく至適薬物療法の検討	岩佐悟	総合内科・歯科・がん救急科	15,000,000	補委 AMED 研究企画課

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
治験の実施に関する研究[WT1ペプチドワクチン]	小川千登世	小児腫瘍科	0	補委 AMED 日本医師会
治験の実施に関する研究[レンパチニブ(胸腺癌)]	山本昇	先端医療科	130,000	補委 AMED 日本医師会
悪性骨軟部腫瘍の治療選択・層別化のためのバイオマーカーの開発と新たな治療法の探索	川井章	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	5,460,000	補委 日本学術振興会
腫瘍細胞内のチロシンキナーゼ活性化部位の同定とそれに基づく創薬基盤の開発	西田俊朗	中央病院長	6,370,000	補委 日本学術振興会
分子Xを標的としたCAR-T 免疫療法の開発	吉村清	先端医療科	13,520,000	補委 日本学術振興会
消化管腫瘍における変異GNASの解析	関根茂樹	先端医療科	1,560,000	補委 日本学術振興会
頭頸部がんにおける癌・幹細胞関連分子の臨床的応用法の開発	森泰昌	病理・臨床検査科	1,300,000	補委 日本学術振興会
KRAS変異陰性膵がんの治療標的となる遺伝子異常の同定	上野秀樹	病理・臨床検査科	650,000	補委 日本学術振興会
次世代シーケンサを用いた胸腺癌新規治療標的遺伝子の同定	藤原豊	病理・臨床検査科	650,000	補委 日本学術振興会
大腸スクリーニングの新規モダリティの有用性についての比較検討試験	角川康夫	病理・臨床検査科	1,040,000	補委 日本学術振興会
F-BPA PET検査によるBPA体内分布評価およびその集積変化の研究	伊丹純	放射線治療科	1,690,000	補委 日本学術振興会
アロマトラーゼとGPR30による疼痛制御に基づいた新規疼痛治療薬の開発	白石成二	病理・臨床検査科	1,300,000	補委 日本学術振興会
融合遺伝子肺癌の腫瘍内多様性獲得がコンパニオン病理診断に及ぼす影響	元井紀子	病理・臨床検査科	1,690,000	補委 日本学術振興会
致命的疾患による心的外傷体験へのコーピングとして機能する精神的成長に関する検討	清水研	病理・臨床検査科	1,560,000	補委 日本学術振興会
悪性脳腫瘍患者のQOL研究の確立と患者背景・治療がQOLに与える影響因子の解析	成田善孝	脳脊髄腫瘍科	1,560,000	補委 日本学術振興会
急性骨髄性白血病におけるRUNX3の意義	松下弘道	病理・臨床検査科	1,690,000	補委 日本学術振興会
悪性リンパ腫でのエピジェネティクス関連遺伝子異常とNFκBシグナルとの関係	小林幸夫	病理・臨床検査科	3,510,000	補委 日本学術振興会
病院設置型加速器ホウ素中性子捕捉療法に向けた基礎的研究と治療適格条件の検討	井垣浩	病理・臨床検査科	1,560,000	補委 日本学術振興会
神経腫瘍における免疫逃避機序と遺伝子変異・予後との関係の解明	大野誠	病理・臨床検査科	1,560,000	補委 日本学術振興会
放射線増強効果をもつプロドラッグ遺伝子治療システムによる新規腫瘍治療法の開発	高橋雅道	脳脊髄腫瘍科	1,300,000	補委 日本学術振興会
組織や細胞内薬剤動態を考慮したDDSシステム開発の基礎研究	西田俊朗	中央病院長	1,690,000	補委 日本学術振興会
子どもをもつがん患者への支援モデルの開発	小嶋リベカ	緩和医療科	1,170,000	補委 日本学術振興会
骨軟部腫瘍における薬剤感受性・耐性機構の解明に基づいた新規個別化薬物治療の開発	遠藤誠	緩和医療科	5,460,000	補委 日本学術振興会
個別化医療に対する患者の意識と心理的ストレスに関する臨床心理学的研究	田辺記子	緩和医療科	1,040,000	補委 日本学術振興会
高エネルギーX線治療における光核反応の生物学的効果に関する研究	脇田明尚	放射線治療科	0 研究期間全体 (3,770,000)	補委 日本学術振興会
中性子捕捉療法のためのリアルタイム線量測定システムの研究開発	中村哲志	放射線治療科	910,000	補委 日本学術振興会
強度変調放射線治療における低エネルギー散乱成分の生物学的効果の影響	岡本裕之	放射線治療科	780,000	補委 日本学術振興会
分類不能小円形細胞肉腫における新規遺伝子型型の探索	吉田朗彦	放射線治療科	1,430,000	補委 日本学術振興会
膵がん腫瘍免疫におけるInnate lymphoid cellの役割に関する研究	吉田裕	病理・臨床検査科	2,080,000	補委 日本学術振興会
同種造血細胞移植後の移植片対宿主病の新規バイオマーカーと国際的評価法の研究	稲本賢弘	造血幹細胞移植科	780,000	補委 日本学術振興会
頭頸部扁平上皮がんにおけるがん幹細胞関連分子と放射線抵抗性に関する研究	村上直也	放射線治療科	1,170,000	補委 日本学術振興会
放射線治療における体内臓器移動の定量化に関する研究	小林和馬	放射線治療科	910,000	補委 日本学術振興会
BCRシグナルとTNFAIP3/A20遺伝子変異の関係	野本順子	血液腫瘍科	1,430,000	補委 日本学術振興会

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
子どもの同意能力を評価するツールの開発および親の認識の妥当性の検証	松本聡子	精神腫瘍科	1,820,000	補委 日本学術振興会
ホルマリン固定検体での遺伝子融合の検出及び薬剤感受性/耐性遺伝子発現診断系の開発	角南久仁子	病理・臨床検査科	2,080,000	補委 日本学術振興会
肉腫の免疫モニタリングによる新規治療標的探索	小林英介	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	1,820,000	補委 日本学術振興会
がん患者が抱える精神心理的・社会的問題に関して、その原因や関連要因になり得る社会的要因に着目し、その是正を目指した研究	内富庸介	支持療法開発部門	7,699,000	補委 厚労省
骨髄バンクコーディネート期間の短縮とドナープールの質向上による造血幹細胞移植の最適な機会提供に関する研究	福田隆浩	造血幹細胞移植科	9,126,000	補委 厚労省
思春期女性へのHPVワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18陽性割合の推移に関する長期疫学研究(第1期;2012年4月-2019年12月)	石川光也	婦人腫瘍科	50,000	補委 公益財団法人国際科学振興財団
				補委

計 71件

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Katayama, Hiroshi; Kanemitsu, Yukihide; Fukuda, Haruhiko	データ管理部	Extended Clavien-Dindo classification of surgical complications: Japan Clinical Oncology Group postoperative complications criteria	SURGERY TODAY,JUN 2016,40,668-685,	Original Article
2	Kakinuma, Ryutaro; Yamaji, Taiki	放射線診断科	Natural History of Pulmonary Subsolid Nodules: A Prospective Multicenter Study	JOURNAL OF THORACIC ONCOLOGY,JUL 2016,11,1012-1028	Original Article
3	Tamura, Kenji; Yonemori, Kan	乳腺・腫瘍内科	Safety and tolerability of AZD5363 in Japanese patients with advanced solid tumors	CANCER CHEMOTHERAPY AND PHARMACOLOGY,APR 2016,77,787-795	Original Article
4	Eba, Junko; .Naka mura, Kenichi; Mizusawa, Junki	研究企画推進部	Stereotactic body radiotherapy versus lobectomy for operable clinical stage IA lung adenocarcinoma: comparison of survival outcomes in two clinical trials with propensity score analysis (JCOG1313-A)	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,AUG 2016,46,748-753	Original Article
5	Iwasa, Satoru; Yamada, Yasuhide; Shoji, Hirokazu 他	消化管内科	Phase I study of a new cancer vaccine of ten mixed peptides for advanced cancer patients	CANCER SCIENCE ,MAY 2016,107,590-600	Original Article
6	Koyanagi, Kazuo	食道外科	Blood flow speed of the gastric conduit assessed by indocyanine green fluorescence New predictive evaluation of anastomotic leakage after esophagectomy	MEDICINE,JUL 2016 ,95,e4386	Original Article
7	Bun, Seiko	薬剤部	Feasibility of dose-dense paclitaxel/carboplatin therapy in elderly patients with ovarian, fallopian tube, or peritoneal cancer	CANCER CHEMOTHERAPY AND PHARMACOLOGY ,OCT 2016 ,78,745-752	Original Article
8	Kuriyama, Kodai;Fuji, Shigeo; Inamoto, Yoshihiro 他	造血幹細胞移植科	Impact of low-dose rabbit anti-thymocyte globulin in unrelated hematopoietic stem cell transplantation	INTERNATIONAL JOURNAL OF HEMATOLOGY ,APR 2016 ,105,453-460	Original Article

9	Kitahara, Hideaki; Maruyama, Dai; Maeshima, Akiko 他	血液腫瘍科	Prognosis of patients with peripheral T cell lymphoma who achieve complete response after CHOP/CHOP-like chemotherapy without autologous stem cell transplantation as an initial treatment	ANNALS OF HEMATOLOGY,MAR 2017,96411-420	Original Article
10	Fujiwara, Yutaka; Tamura, Kenji; Kondo, Shunsuke	先端医療科	Phase 1 study of abemaciclib, an inhibitor of CDK 4 and 6, as a single agent for Japanese patients with advanced cancer	CANCER CHEMOTHERAPY AND PHARMACOLOGY,AUG 2016,78,281-288	Original Article
11	Murakami, Naoya; Kobayashi, Kazuma; Nakamura, Satoshi 他	放射線治療科	The role of interstitial brachytherapy in the management of primary radiation therapy for uterine cervical cancer	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY ,OCT 2016,46,942-951	Original Article
12	Okuma, Hitomi S	乳腺・腫瘍内科	Trends in the development of MET inhibitors for hepatocellular carcinoma	FUTURE ONCOLOGY,APR 2016 ,12,1275-1286	Review
13	Mitsuma, Koko; Taniguchi, Hirokazu; Kishi, Yoji 他	臨床検査科	A case of adenocarcinoma with enteroblastic differentiation of the ampulla of Vater	PATHOLOGY INTERNATIONAL,,APR 2016 ,66,230-235	Original Article
14	Nakamura, Satoshi; Murakami, Naoya; Inaba, Koji	放射線治療科	After low and high dose-rate interstitial brachytherapy followed by IMRT radiotherapy for intermediate and high risk prostate cancer	BMC CANCER,MAY 2016 ,16,296	Original Article
15	Makita, Shinichi	血液腫瘍科	Clinical features and outcomes of 139 Japanese patients with Hodgkin lymphoma	INTERNATIONAL JOURNAL OF HEMATOLOGY,AUG 2016,104,236-244	Original Article
16	Maeshima, Akiko; Taniguchi, Hirokazu; Toyoda, Kosuke 他	臨床検査科	Clinicopathological features of histological transformation from extranodal marginal zone B-cell lymphoma of mucosa-associated lymphoid tissue to diffuse large B-cell lymphoma: an analysis of 467 patients	BRITISH JOURNAL OF HAEMATOLOGY,SEP 2016,174,923-931	Original Article
17	Yamaguchi, Toshifumi; Iwasa, Satoru; Ikezawa, Nobuaki 他	食道外科	Comparison of Panitumumab Plus Irinotecan and Cetuximab Plus Irinotecan for KRAS Wild-type Metastatic Colorectal Cancer	ANTICANCER RESEARCH,JUL 2016,174,923-931	Original Article
18	Miyoshi, Shion	内視鏡科	Diagnostic Utility of Pleural Fluid Cell Block versus Pleural Biopsy Collected by Flex-Rigid Pleuroscopy for Malignant Pleural Disease: A Single Center Retrospective Analysis	PLOS ONE,NOV 2016,11	Original Article

19	Nishida, Toshiro	中央病院	Diagnostic and Treatment Strategy for Small Gastrointestinal Stromal Tumors	CANCER,OCT 2016,122,3110-3118	Review
20	Kobayashi, Kazuma; Murakami, Naoya; Inaba, Koji 他	放射線治療科	Dose reconstruction technique using non-rigid registration to evaluate spatial correspondence between high-dose region and late radiation toxicity: a case of tracheobronchial stenosis after external beam radiotherapy combined with endotracheal brachytherapy for tracheal cancer	JOURNAL OF CONTEMPORARY BRACHYTHERAPY,APR 2016,8,156-163	Original Article
21	Matsuda, Takahisa	検診部門	Endoscopic diagnosis of colorectal serrated lesions: Current status and future perspectives based on the results of a questionnaire survey	DIGESTIVE ENDOSCOPY,APR 2016 ,28,35-42	Original Article
22	Tsutsumida, Arata	皮膚腫瘍科	Frequency of level II and III axillary nodes metastases in patients with positive sentinel lymph nodes in melanoma: a multi-institutional study in Japan	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY ,AUG 2016,21,796-800	Original Article
23	Kimbara, Shiro; Kondo, Shunsuke	大腸外科	Immune checkpoint and inflammation as therapeutic targets in pancreatic carcinoma	WORLD JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY,SEP 2016,22,7440-7452	Review
24	Yuda, Sayako; Maruyama, Dai; Maeshima, Akiko	血液腫瘍科	Influence of the watch and wait strategy on clinical outcomes of patients with follicular lymphoma in the rituximab era	ANNALS OF HEMATOLOGY,DEC 2016,95,2017-2022	Original Article
25	Kishino, Takayoshi; Niwa, Tohru; Nakajima, Takeshi	消化器外科	Integrated analysis of DNA methylation and mutations in esophageal squamous cell carcinoma	MOLECULAR CARCINOGENESIS ,DEC 2016,55,2077-2088	Original Article
26	Fujiwara, Yutaka; Horinouchi, Hidehito; Kanda, Shintaro 他	先端医療科	Pharmacokinetic profiles of significant adverse events with crizotinib in Japanese patients with ABCB1 polymorphism	CANCER SCIENCE ,AUG 2016 ,107,1117-1123	Original Article
27	Setsu, Nokitaka; Miyake, Mototaka; Wakai, Susumu 他	臨床検査科	Primary Retroperitoneal Myxoid Liposarcomas	AMERICAN JOURNAL OF SURGICAL PATHOLOGY,SEP 2016,40,1286-1290	Original Article
28	Shiino, Sho; Kinoshita, Takayuki; Yoshida, Masayuki 他	乳腺外科	Prognostic Impact of Discordance in Hormone Receptor Status Between Primary and Recurrent Sites in Patients With Recurrent Breast Cancer	CLINICAL BREAST CANCER,AUG 2016,16,E133-E140	Original Article
29	Shida, Dai; Hamaguchi, Tetsuya; Ochiai, Hiroki 他	大腸外科	Prognostic Impact of Palliative Primary Tumor Resection for Unresectable Stage 4 Colorectal Cancer: Using a Propensity Score Analysis	ANNALS OF SURGICAL ONCOLOGY,OCT 2016,23,3602-3608	Original Article

30	Murakami, Naoya; Kato, Tomoyasu; Nakamura, Satoshi 他	放射線治療科	Salvage High-dose-rate Interstitial Brachytherapy for Pelvic Recurrent Cervical Carcinoma After Hysterectomy	ANTICANCER RESEARCH ,MAY 2016 ,36,2413-2421	Original Article
31	Sekiguchi, Masau; Kakugawa, Yasuo; Terauchi, Takashi 他	検診部門	Sensitivity of 2-[F-18]fluoro-2-deoxyglucose positron emission tomography for advanced colorectal neoplasms: a large-scale analysis of 7505 asymptomatic screening individuals	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY ,DEC 2016,51,1122-1132	Original Article
32	Abe, Seiichiro; Sakamoto, Taku; Takamaru, Hiroyuki 他	内視鏡科	Stenosis rates after endoscopic submucosal dissection of large rectal tumors involving greater than three quarters of the luminal circumference	SURGICAL ENDOSCOPY AND OTHER INTERVENTIONAL TECHNIQUES,DEC 2016,30,5459-5464	Original Article
33	Sekiguchi, Masau; Matsuda, Takahisa; Saito, Yutaka	検診部門	Surveillance after endoscopic and surgical resection of colorectal cancer	BEST PRACTICE & RESEARCH IN CLINICAL GASTROENTEROLOGY,DEC 2016,30,959-970	Original Article
34	Matsuda, Takahisa; Saito, Yutaka	検診部門	Surveillance colonoscopy after endoscopic treatment for colorectal neoplasia: From the standpoint of the Asia-Pacific region	DIGESTIVE ENDOSCOPY,APR 2016,28,342-347	Review
35	Morita, S.; Fukagawa, T.; Katai, H.	胃外科	The clinical significance of para-aortic nodal dissection for advanced gastric cancer	EJSO ,SEP 2016,42,1448-1454	Original Article
36	Nakagawa, Kazuo; Asamura, Hisao; Tsuta, Koji 他	呼吸器外科	The novel one-step nucleic acid amplification (OSNA) assay for the diagnosis of lymph node metastasis in patients with non-small cell lung cancer (NSCLC): Results of a multicenter prospective study	LUNG CANCER,JUL 2016,97,1-7	Original Article
37	Horinouchi, Hidehito	呼吸器内科	The prospect of patritumab for treating non-small cell lung cancer	EXPERT OPINION ON BIOLOGICAL THERAPY,APR 2016,16,1549-1555	Original Article
38	Sofue, Keitaro; Takeuchi, Yoshito; Tsurusaki, Masakatsu 他	放射線診断科	Value of Percutaneous Radiologic Gastrostomy for Patients with Advanced Esophageal Cancer	ANNALS OF SURGICAL ONCOLOGY ,OCT 2016,23,3623-3631	Original Article
39	Takahashi, Naoki; Iwasa, Satoru; Fukahori, Masaru	先端医療科	A phase I study of the combination of panitumumab and bevacizumab in KRAS wild-type colorectal cancer patients previously treated with fluoropyrimidine, oxaliplatin, irinotecan and bevacizumab	CANCER CHEMOTHERAPY AND PHARMACOLOGY ,SEP 2016 ,78,567-575	Original Article
40	Murakami, Naoya; Kobayashi, Kazuma; Nakamura, Satoshi 他	放射線治療科	A phase I/II clinical trial for the hybrid of intracavitary and interstitial brachytherapy for locally advanced cervical cancer	BMC CANCER,AUG 2016,16,640	Original Article

41	Saito, Yoshimasa; Kumamoto, Tadashi; Makino, Yoshinori 他	薬剤部	A retrospective study of treatment and prophylaxis of ifosfamide-induced hemorrhagic cystitis in pediatric and adolescent and young adult (AYA) patients with solid tumors	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,SEP 2016,46,856-861	Original Article
42	Sone, Miyuki; Arai, Yasuaki; Sugawara, Shunsuke 他	放射線診断科	Angio-CT-Assisted Balloon Dissection: Protection of the Adjacent Intestine during Cryoablation for Patients with Renal Cancer	JOURNAL OF VASCULAR AND INTERVENTIONAL RADIOLOGY,SEP 2016,27,1414-1419	Original Article
43	Miyamoto, Shimpei; Fujiki, Masahide; Kawai, Akira	形成外科	Anterolateral thigh flap for axillary reconstruction after sarcoma resection	MICROSURGERY,JUL 2016,36,378-383	Original Article
44	Watanabe, Yukio; Kusumoto, Masahiko; Yoshida, Akihiko 他	呼吸器外科	Cavity Wall Thickness in Solitary Cavitary Lung Adenocarcinomas Is a Prognostic Indicator	Cavity Wall Thickness in Solitary Cavitary Lung Adenocarcinomas Is a Prognostic Indicator ,DEC 2016,102,1863-1871	Original Article
45	Sasaki, Yusuke; Kato, Ken	消化管内科	Chemoradiotherapy for esophageal squamous cell cancer	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,SEP 2016 ,46,805-810	Review
46	Makita, Shinichi; Maeshima, Akiko; Taniguchi, Hirokazu	血液腫瘍科	Classical Hodgkin lymphoma primary refractory to brentuximab vedotin, with transformation to CD30-positive diffuse large B-cell lymphoma	INTERNATIONAL JOURNAL OF HEMATOLOGY,SEP 2016,104,396-399	Original Article
47	Okuma, H. S; Koizumi, F.; Hirakawa, A. 他	乳腺・腫瘍内科	Clinical and microarray analysis of breast cancers of all subtypes from two prospective preoperative chemotherapy studies	BRITISH JOURNAL OF CANCER,AUG 9 2016,115,411-419	Original Article
48	Masai, Kyohei; Sakurai, Hiroyuki; Suzuki, Shigeki 他	呼吸器外科	Clinicopathological Features of Colloid Adenocarcinoma of the Lung: A Report of Six Cases	JOURNAL OF SURGICAL ONCOLOGY,AUG 2016,114, 211-215	Original Article
49	Masai, Kyohei; Kinoshita, Takayuki; Jimbo, Kenjiro 他	呼吸器外科	Clinicopathological features of breast angiosarcoma	BREAST CANCER,SEP 2016,23,718-723	Original Article
50	Miyamoto, Ken-ichi; Kobayashi, Yukio; Maeshima, Akiko 他	血液腫瘍科	Clinicopathological prognostic factors of 24 patients with B-cell lymphoma, unclassifiable, with features intermediate between diffuse large B-cell lymphoma and Burkitt lymphoma	INTERNATIONAL JOURNAL OF HEMATOLOGY ,JUN 2016 ,103,693-702	Original Article
51	Miyamoto, Shimpei; Sakuraba, Minoru; Nagamatsu, Shogo 他	形成外科	Combined use of anterolateral thigh flap and pharyngeal flap for reconstruction of extensive soft-palate defects	MICROSURGERY, MAY 2016,36,291-296	Original Article
52	Inamoto, Yoshihiro; Kimura, Fumihiko; Kanda, Junya 他	造血幹細胞移植科	Comparison of graft-versus-host disease-free, relapse-free survival according to a variety of graft sources: antithymocyte globulin and single cord blood provide favorable outcomes in some	HAEMATOLOGICA,DEC 2016,101,1592-1602	Original Article

53	Tanaka, Ryota; Namikawa, Kenjiro; Takahashi, Akira 他	皮膚腫瘍科	Concordance of the HER2 protein and gene status between primary and corresponding lymph node metastatic sites of extramammary Paget disease	CLINICAL & EXPERIMENTAL METASTASIS, OCT 2016,33,687-697	Original Article
54	Inoki, Kazuya; Nakajima, Takeshi;	内視鏡科	Depressed-type submucosal invasive colorectal cancer in a patient with Lynch syndrome diagnosed using short-interval colonoscopy	DIGESTIVE ENDOSCOPY, NOV 2016,28,749-754	Original Article
55	Okuma, Hitomi Sumiyoshi; Kobayashi, Yukio; Makita, Shinichi 他	乳腺・腫瘍内科	Disseminated herpes zoster infection initially presenting with abdominal pain in patients with lymphoma undergoing conventional chemotherapy: A report of three cases	ONCOLOGY LETTERS ,AUG 2016 ,12,809-814	Original Article
56	Hozumi, Jun; Egi, Moritoki; Sato, Tetsufumi 他	麻酔・集中治療科	Dose of intraoperative remifentanil administration is independently associated with increase in the risk of postoperative nausea and vomiting in elective mastectomy under general anesthesia	JOURNAL OF CLINICAL ANESTHESIA, NOV 2016,34,227-231	Original Article
57	Yonemori, Kan; Kawachi, Asuka; Okuma, Hitomi 他	乳腺・腫瘍内科	Drug induced interstitial lung disease in oncology phase I trials	CANCER SCIENCE ,DEC 2016,107,1830-1836	Original Article
58	Fujiki, Masahide; Miyamoto, Shimpei; Kobayashi, Eisuke 他	形成外科	Early detection of local recurrence after soft tissue sarcoma resection and flap reconstruction	INTERNATIONAL ORTHOPAEDICS, SEP 2016,40,1975-1980	Original Article
59	Maruyama, Dai; Tobinai, Kensei	血液腫瘍科	Efficacy and safety of ibrutinib in Japanese patients with relapsed or refractory mantle cell lymphoma	CANCER SCIENCE, DEC 2016,107,1785-1790	Original Article
60	Tachimori, Yuji	食道外科	Efficacy of lymph node dissection for each station based on esophageal tumor location	ESOPHAGUS, APR 2016,13,138-145	Original Article
61	Oda, Ichiro; Suzuki, Harushisa; Yoshinaga, Shigetaka	内視鏡科	Endoscopic Submucosal Dissection for Early Gastric Cancer: Getting It Right!	STEM CELLS, PRE-NEOPLASIA, AND EARLY CANCER OF THE UPPER GASTROINTESTINAL TRACT, APR 2016,908,317-330	Original Article
62	Shimada, Kazuaki; Ojima, Hidenori; Yamagishi, Seri 他	肝胆膵外科	Establishment of various biliary tract carcinoma cell lines and xenograft models for appropriate preclinical studies	WORLD JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY, OCT 2016,22,9035-9038	Original Article

63	Tanaka, Masahiro; Kishi, Yoji; Esaki, Minoru	肝胆膵外科	Feasibility of Routine Application of Gadoteric Acid-Enhanced MRI in Combination with Diffusion-Weighted MRI for the Preoperative Evaluation of Colorectal Liver Metastases	ANNALS OF SURGICAL ONCOLOGY, NOV 2016 ,23,3991-3998	Original Article
64	Sugano, Kokichi; Nakajima, Takeshi; Sekine, Shigeki	内視鏡科	Germline PMS2 mutation screened by mismatch repair protein immunohistochemistry of colorectal cancer in Japan	CANCER SCIENCE, NOV 2016,107,1677-1686	Original Article
65	Sasada, Shinsuke; Kodaira, Makoto; Shimoi, Tatsunori 他	乳腺・腫瘍内科	Ifosfamide and Etoposide Chemotherapy in the Treatment of Recurrent/Refractory Rhabdomyosarcoma in Adults	ANTICANCER RESEARCH, MAY 2016,36,2429-2432	Original Article
66	Inaba, Koji; Okamoto, Hiroyuki; Wakita, Akihisa 他	放射線治療科	Long-term observations of radiation-induced creatinine clearance reduction and renal parenchymal volume atrophy	RADIOTHERAPY AND ONCOLOGY, JUL 2016 ,120,145-149	Original Article
67	Hori, Shutaro; Shimada, Kazuaki; Ino, Yoshinori 他	臨床検査科	Macroscopic features predict outcome in patients with pancreatic ductal adenocarcinoma	VIRCHOWS ARCHIV, DEC 2016,469,621-634	Original Article
68	Takahashi, Kenta; Yoshida, Hiroshi; Watanabe, Reiko 他	臨床検査科	Metastasis of extra-ampullary duodenal adenocarcinoma to the uterine cervix	MALAYSIAN JOURNAL OF PATHOLOGY, APR 2016,38,45-48	Original Article
69	Yamazaki, Naoya	皮膚腫瘍科	Optimal strength and timing of steroids in the management of erlotinib-related skin toxicities in a post-marketing surveillance study (POLARSTAR) of 9909 non-small-cell lung cancer patients	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY , APR 2016,21,248-253	Original Article
70	Murakami, Naoya; Matsumoto, Fumihiko; Yoshimoto, Seiichi 他	放射線治療科	Patterns of recurrence after selective postoperative radiation therapy for patients with head and neck squamous cell carcinoma	BMC CANCER, MAR 2016,16,192	Original Article
71	Okusaka, Takuji; Ueno, Hideki;	肝胆膵内科	Phase I study of nintedanib in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma and liver impairment	CANCER SCIENCE, DEC 2016,107,1791-1799	Original Article
72	Yamazaki, Naoya	皮膚腫瘍科	Phase I study of pegylated interferon-alpha-2b as an adjuvant therapy in Japanese patients with malignant melanoma	JOURNAL OF DERMATOLOGY, OCT 2016,43,1146-1153	Original Article

73	Tamura, Yosuke; Nokihara, Hiroshi; Yamamoto, Noboru 他	先端医療科	Phase I study of the second-generation, recombinant, human EGFR antibody necitumumab in Japanese patients with advanced solid tumors	CANCER CHEMOTHERAPY AND PHARMACOLOGY, NOV 2016,78,995-1002	Original Article
74	Takahashi, Kana	放射線治療科	Prospective study of postoperative whole breast radiotherapy for Japanese large-breasted women: a clinical and dosimetric comparisons between supine and prone positions and a dose measurement using a breast phantom	BMC CANCER, SEP 2016,16,757	Original Article
75	Izumo, Takehiro; Matsumoto, Yuji; Tsuchida, Takaaki 他	内視鏡科	Re-biopsy by endobronchial ultrasound procedures for mutation analysis of non-small cell lung cancer after EGFR tyrosine kinase inhibitor treatment	BMC Pulmonary Medicine, JUL 2016,16,	Original Article
76	Tanaka, Ryota; Yonemori, Kan; Hirakawa, Akihiro 他	乳腺・腫瘍内科	Risk Factors for Developing Skeletal-Related Events in Breast Cancer Patients With Bone Metastases Undergoing Treatment With Bone-Modifying Agents	ONCOLOGIST, APR 2016,21,508-513	Original Article
77	Horinouchi, Hidehito	呼吸器内科	Role of multimodality therapy in cIIIA-N2 non-small cell lung cancer: perspective	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY, DEC 2016,46,1174-1178	Original Article
78	Yonemori, Kan; Tamura, Kenji; Kodaira, Makoto 他	乳腺・腫瘍内科	Safety and tolerability of the olaparib tablet formulation in Japanese patients with advanced solid tumours	CANCER CHEMOTHERAPY AND PHARMACOLOGY, SEP 2016,78,525-531	Original Article
79	Inoguchi, Hironobu; Shimizu, Ken	精神腫瘍科	Screening for untreated depression in cancer patients: a Japanese experience	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY, NOV 2016, 46,993-999	Original Article
80	Kobayashi, Kenya; Matsumoto, Fumihiko; Kodaira, Makoto 他	頭頸部腫瘍科	Significance of delayed primary excision in localized nonmetastatic adult head and neck rhabdomyosarcoma	CANCER MEDICINE, OCT 2016, 5,2708-2714	Original Article
81	Makino, Yoshinori; Watanabe, Michiko; Makihara, Reiko Ando 他	薬剤部	Simultaneous optimization of limited sampling points for pharmacokinetic analysis of amrubicin and amrubicinol in cancer patients	ASIA-PACIFIC JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY, SEP 2016,12,259-264	Original Article
82	Miyamoto, Shimpei; Fujiki, Masahide; Setsu, Nokitaka 他	形成外科	Simultaneous reconstruction of the bone and vessels for complex femoral defect	WORLD JOURNAL OF SURGICAL ONCOLOGY, NOV 2016,14,291	Original Article
83	Sekine, Shigeki; Yoshida, Hiroshi	臨床検査科	The Japanese Viewpoint on the Histopathology of Early Gastric Cancer	FAMILIAL CANCER, APR 2016,908, 331-346	Original Article

84	Miyamoto, Shimpei; Arikawa, Masaki; Fujiki, Masahide 他	形成外科	The Superior Rectal Artery as a Recipient Vessel for Free Flap Transfer After Partial Sacrectomy in Patients With Chordoma	ANNALS OF PLASTIC SURGERY ,APR 2016,76,315-317	Original Article
85	Harano, Kenichi; Yonemori, Kan; Yonemori, Kan 他	乳腺・腫瘍内科	The influence of familial factors on the choice of the place of death for terminally ill breast cancer patients: a retrospective single-center study	BREAST CANCER,SEP 2016,23,797-806	Original Article
86	Tachimori, Yuji	食道外科	Comprehensive Registry of Esophageal Cancer in Japan, 2009	ESOPHAGUS ,APR 2016 ,13,110-137	Original Article
87	Sekiguchi, Masau; Oda, Ichiro; Suzuki, Haruhisa 他	内視鏡科	Risk stratification and predictive risk-scoring model for lymph node metastasis in early gastric cancer	JOURNAL OF GASTROENTEROLOGY, OCT 2016 ,51,961-970	Original Article
88	Sato, Yuya; Kinoshita, Takayuki; Suzuki, Junko 他	乳腺外科	Preoperatively diagnosed ductal carcinoma in situ: risk prediction of invasion and effects on axillary management	BREAST CANCER,SEP 2016,23,761-770	Original Article
89	Takahashi, Naoki; Iwasa, Satoru; Sasaki, Yusuke 他	先端医療科	Serum levels of soluble programmed cell death ligand 1 as a prognostic factor on the first-line treatment of metastatic or recurrent gastric cancer	JOURNAL OF CANCER RESEARCH AND CLINICAL ONCOLOGY,AUG 2016,142,1727-1738	Original Article
90	Yoshida, Hiroshi	臨床検査科	A significant subgroup of resectable gallbladder cancer patients has an HER2 positive status	VIRCHOWS ARCHIV ,APR 2016,468,431-439	Original Article
91	Yamamoto, Noboru; Kozuki, Toshiyuki	先端医療科	Final overall survival in JO22903, a phase II, open-label study of first-line erlotinib for Japanese patients with EGFR mutation-positive non-small-cell lung cancer	INTERNATIONAL JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY,FEB 2017,22,70-78	Original Article
92	Munakata, Wataru; Ohashi, Ken; Yamauchi, Nobuhiko 他	血液腫瘍科	Fulminant type I diabetes mellitus associated with nivolumab in a patient with relapsed classical Hodgkin lymphoma	INTERNATIONAL JOURNAL OF HEMATOLOGY,MAR 2017 ,105,383-386	Original Article
93	Okuma, Hitomi Sumiyoshi; Horinouchi, Hidehito; Kitahara, Shinsuke 他	呼吸器内科	Comparison of Amrubicin and Weekly Cisplatin/Etoposide/Irinotecan in Patients With Relapsed Small-cell Lung Cancer	CLINICAL LUNG CANCER,MAR 2017,18, 234-240	Original Article
94	Matsumoto, Yuji; Izumo, Takehiro; Sasada, Shinji 他	内視鏡科	Diagnostic utility of endobronchial ultrasound with a guide sheath under the computed tomography workstation (ziostation) for small peripheral pulmonary lesions	CLINICAL RESPIRATORY JOURNAL,MAR 2017,11,185-192	Original Article

95	Kawai, Akira	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Phase 2 study of eribulin in patients with previously treated advanced or metastatic soft tissue sarcoma	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY, FEB 2017, 47, 137-144	Original Article
96	Hayashi, Hideyuki; Kohno, Takashi; Ueno, Hideki 他	肝胆膵内科	Utility of Assessing the Number of Mutated KRAS, CDKN2A, TP53, and SMAD4 Genes Using a Targeted Deep Sequencing Assay as a Prognostic Biomarker for Pancreatic Cancer	PANCREAS, MAR 2017, 46, 335-340	Original Article
97	Yamada, Masayoshi; Saito, Yutaka; Takamaru, Hiroyuki 他	内視鏡科	Long-term clinical outcomes of endoscopic submucosal dissection for colorectal neoplasms in 423 cases: a retrospective study	ENDOSCOPY, MAR 2017, 49, 233-242	Original Article
98	Izumo, Takehiro; Matsumoto, Yuji; Sasada, Shinji 他	内視鏡科	Utility of rapid on-site cytologic evaluation during endobronchial ultrasound with a guide sheath for peripheral pulmonary lesions	JAPANESE JOURNAL OF CLINICAL ONCOLOGY, MAR 2017, 47, 221-225	Original Article
99	Ogura, Koichi; Higashi, Takahiro; Kawai, Akira	骨軟部腫瘍・リハビリテーション科	Statistics of bone sarcoma in Japan: Report from the Bone and Soft Tissue Tumor Registry in Japan	JOURNAL OF ORTHOPAEDIC SCIENCE, JAN 2017, 22, 133-143	Original Article
100	Ono, Makiko; Tsuda, Hitoshi; Yoshida, Masayuki 他	乳腺・腫瘍内科	Prognostic Significance of Progesterone Receptor Expression in Estrogen-Receptor Positive, HER2-Negative, Node-Negative Invasive Breast Cancer With a Low Ki-67 Labeling Index	CLINICAL BREAST CANCER, FEB 2017, 17, 41-47	Original Article

計 100件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における 所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					
2					
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 手順書の主な内容 ＜研究倫理審査委員会標準業務手順書＞ ・ 委員会の運用規定 ・ 審査種別ごとの手順 など ＜研究審査委員会共通予備調査会標準業務手順書＞ ・ 軽微な侵襲を超える研究の申請時に、審査開始前に行う予備調査に関する手順 など	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 17 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・ 規定の主な内容 「利益相反管理指針」における基本方針 「利益相反管理規程」において目的・管理対象・管理体制 「COI委員会運営規程」において管理基準 等を策定しています。	

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回 (但し必要があれば都度)
---------------------------------------	-----------------------

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 4 回 (予定) ※H28は4回/年
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>研究倫理と被験者保護、各種倫理指針、研究許可申請等の手続きに関する講義</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

がん専門修練医・・・レジデント正規コース研修修了、またはこれに相当する学識を有し、5年以上の臨床経験を有する医師を対象とし、がんの診断・治療・研究に必要な高度先進的な知識と技術を有するがん診療の専門医を育成することを目的としている。研修年限は2年で、指導医のもとで高度の知識・技術の習得・開発、さらには臨床研究、トランスレーショナルリサーチ、基礎研究も実践する。各領域の将来のリーダーを目指す人材の育成を目的とした研修制度である。

正規レジデント・・・2年以上の臨床経験を有する者を対象に、複数診療科のローテーション研修、あるいは特定診療科の研修を通して、がんに関する幅広い知識と技術の習得を目指す。研修年限は3年で、我が国を代表する指導医のもとでがん診療、がん研究に従事する。日本のがん医療を支える、すぐれたがん専門医を育成することを目的とした、国立がん研究センター教育・研修制度の中核となる研修制度である。

短期レジデント・・・がん医療の均てん化に貢献することを目的として、柔軟な研修開始時期、研修期間により研修者のニーズに幅広く対応することを目的とした研修制度である。研修時期は4月、7月、10月、1月から選択可能であり、研修期間は診療科により異なるが、最短で3ヶ月、最長で2年までである。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	133.5人
-------------	--------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
成田 善孝	脳神経外科	科長	25 年	
鈴木 茂伸	眼科	科長	23 年	
吉本 世一	耳鼻いんこう科	科長	25 年	
宮本 慎平	形成外科	科長	15 年	
木下 貴之	乳腺外科	科長	28 年	
田村 研治	乳腺・腫瘍内科	科長	24 年	
渡邊 俊一	呼吸器外科	科長	26 年	
大江 裕一郎	呼吸器内科	科長	32 年	
斎藤 豊	内視鏡科	科長	24 年	
大幸 宏幸	食道外科	科長	23 年	H29.4.1～
片井 均	胃外科	科長	34 年	
金光 幸秀	大腸外科	科長	26 年	
朴 成和	消化管内科	科長	29 年	
島田 和明	肝胆膵外科	科長	34 年	
奥坂 拓志	肝胆膵内科	科長	26 年	
藤元 博行	泌尿器科	科長	28 年	
加藤 友康	婦人科	医長	33 年	
川井 章	整形外科	科長	30 年	H29.2.1～
山崎 直也	皮膚科	科長	31 年	

伊豆津 宏二	血液腫瘍科	科長	23 年	H29.4.1~
福田 隆浩	造血幹細胞移植科	科長	27 年	
小川 千登世	小児科	科長	26 年	
佐藤 哲文	麻酔科	科長	27 年	
里見 絵理子	緩和医療科	科長	22 年	
清水 研	精神科	科長	18 年	
荒井 保明	放射線診断科	科長	37 年	
伊丹 純	放射線治療科	科長	35 年	
平岡 伸介	病理科	副科長	25 年	
山本 昇	先端医療科	科長	25 年	
福田 治彦	データ管理部	部長	29 年	
上野 尚雄	歯科	医長	19 年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

・薬剤師レジデント研修・・・がん薬物療法に関連する病院薬剤業務の基本的技術を修得するとともに、臨床および基礎の幅広い知識と技術の修得を図り、がん医療に精通した薬剤師を養成することを目的としている。研修期間は3年で、指導薬剤師のもとに薬剤業務や病棟業務に従事する。

・がん専門薬剤師研修・・・国立がん研究センター薬剤師レジデント研修を修了した者、またはこれに相当する学識を有し、3年以上の臨床経験を有する者を対象とし、がん患者の薬学的管理介入や臨床薬学研究に必要な高度先進的な知識と技術を有するがん診療の専門薬剤師を育成することを目的としている。研修年限は2年で、指導薬剤師のもとで高度な知識

・技術の習得・開発に努め、患者の臨床薬剤業務に従事する。

・看護部の研修については別紙の通り。

・研修の期間・実施回数

・薬剤師レジデント研修・・・3年間

・がん専門薬剤師研修・・・2年間

・研修の参加人数

・薬剤師レジデント研修・・・在籍者 16名（平成29年3月31日現在）

・がん専門修練薬剤師・・・在籍者 0名（平成29年3月31日現在）

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・任意研修制度・受託実習制度と言う研修制度があり、他の医療機関に所属する医療関係者の受け入れを行っている。対象者は医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、栄養士等であり、医学生や看護学生等の受け入れも行っている。

・研修の期間・実施回数

・研修期間・・・1日から1年間と幅広く設定し、1年以上の延長も可能である。

・研修の参加人数

・平成28年度で新たに受け入れた医療従事者は95名である。その他、学生等の受け入れを454名行った。

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

H28年度 看護部院内教育プログラム

カテゴリ	教育・研修名	目標・目的	内容	日程	対象者	出席人数
ベーシック教育	がん看護概論	1) がんの特徴と罹患に伴う患者・家族の身体、心理、社会的役割の変化を知る 2) がん患者・家族の全人的苦痛を捉える意味を知る 3) がん患者・家族に必要な看護実践に意欲を示す	講義	2016.4.6(木) 13:00~15:00	新採用者	88名
ベーシック教育	基礎看護技術① ●移動・移送の介助 ●与薬(内服とダブルチェック) ●バイタルサインの測定	1) 患者を安全に移送するための規準について知る 2) 患者に合った移動介助方法を選択することの必要性を理解する 3) 患者の移動介助における危険性について考えることができる 4) 移動介助中に患者のプライバシーを配慮することができる 5) 与薬における確認項目と指さし・声出し確認の重要性が理解できる 6) 間違いやすい薬剤、どのような状況で誤薬が起こりやすいかを知る 7) 正しい看護手順を理解し、指導を受けながら与薬の演習を行うことができる 8) バイタルサインを正しく測定できる	講義 演習	2016.4.12(火) 8:45~16:45	レベル I 1年目	77名
ベーシック教育	基礎看護技術② ●輸液ポンプの取扱 ●与薬(点滴)	1) 輸液ポンプの機能を知り看護手順に沿って正しく操作することができる 2) 輸液ポンプの使用基準について知る 3) 輸液ポンプの間違えやすい操作を知る 4) 与薬における確認項目と指さし・声出し確認の重要性を説明できる 5) 間違いやすい薬剤の存在、誤薬の起こりやすい状況を理解する 6) 正しい看護手順を理解し、指導を受けながら与薬の演習を行うことができる	講義 演習	2016.4.21(木) 8:45~16:55	レベル I 1年目	78名
ベーシック教育	基礎看護技術③ ●静脈血採血 ●心電図モニター	1) 心電図モニターの取り扱いを理解できる 2) 心電図モニターの装着基準を理解する 3) 正しい位置に電極を装着することができる 4) モニター画面の内容を理解する 5) 静脈血採血の目的と必要な知識(静脈の解剖、採血に伴う有害事象のリスク、必要物品、針の取扱など)を理解する 6) 静脈血採血に適した部位を選択することができる 7) 指導を受けながら静脈血採血を実施する	講義 演習	2016.4.25(月) 8:45~17:00	レベル I 1年目	78名
ベーシック教育	1か月振り返り	1) 1ヶ月を振り返り、現在困っていること・悩みを表現できる 2) グループメンバーの意見に共感することができる 3) 現在の自分の課題について指導者と話し合えることができる	GW	2016.5.10(火) 14:00~16:30	レベル I 1年目	78名
ベーシック教育	コミュニケーション	1) 自分と患者・家族、またはスタッフとの円滑なコミュニケーションを振り返る 2) 演習とグループワークを通し、自分のコミュニケーションの傾向を知る 3) 円滑なコミュニケーションのための自己課題を明確にし、解決策を見出せる	演習 GW	2016.6.7(火) ①9:00~11:30 ②13:30~16:00	レベル I 1年目	78名
ベーシック教育	多重課題	1) 演習を通し、優先度の判断・看護実践・行動を振り返ることができる 2) 安全な看護実践について、自己課題を明確にし、解決策を見出せる	講義 演習 GW	2016.7.5(火) ①9:30~11:30 ②13:30~15:30	レベル I 1年目	77名
ベーシック教育	フィジカルアセスメント	1) フィジカルアセスメントの基礎知識・技術を習得する 2) 起きている現象についてアセスメントするための情報収集ができる 3) フィジカルアセスメントの基礎知識をもとに、起きている現象について助言を受けながらアセスメントできる	講義 演習 GW	2016.10.4(火) 9:00~16:00	レベル I 1年目	74名
ベーシック教育	がんの基礎知識	1) がん罹患や死亡、生存率などの統計データの意味と見方が理解できる 2) がん予防および早期発見の重要性を述べることができる 3) がんの病理学的特徴、発がんのメカニズム、再発、転移などの特徴について知る 4) 国のがん対策について知る	講義	2016.12.6(火) 9:00~11:30	レベル I 1年目	75名
ベーシック教育	看護過程の展開	1) 看護過程の5つの段階(アセスメント、診断、計画、介入、評価)についてそれぞれ説明できる 2) 最善のケアを提供するために看護過程が重要であることを理解できる 3) 看護実践において看護過程を展開する	講義 演習 GW	2016.12.6(火) 13:30~16:00	レベル I 1年目	74名
ベーシック教育	がん治療と看護-1	1) 手術療法ががん患者の心身に及ぼす影響についてアセスメントできる 2) 手術療法に伴う主な合併症の予防と術後回復を促進する援助ができる 3) 化学療法の基礎知識を習得する 4) 化学療法による副作用や合併症とそれに伴う心身の苦痛を理解できる 5) 放射線療法の基礎知識を習得する 6) 放射線療法による副作用とそれに伴う心身の苦痛を理解できる	講義	2017.1.24(火) 13:30~16:30	レベル I 1年目	76名
ベーシック教育	1年の振り返り	1) 1年間で学んだ内容を総括し、シミュレーションで実践することができる 2) 1年を振り返り自分たちの成長や看護への思いを語るすることができる 3) 互いの評価・課題の発表を聞き、共有できる 4) 次年度に向けての自己の課題を明確にできる	講義 GW	2017.3.15(水) 9:30~15:30	レベル I 1年目	72名

ベーシック教育	末梢静脈注射技術認定	1) 末梢静脈内注射実施における看護師の役割と責務及び実施範囲を理解できる 2) 末梢静脈内注射に必要な解剖生理の基礎知識を習得する 3) 末梢静脈内注射における薬剤に関する知識と管理を理解できる 4) 安全な末梢静脈内注射の方法がわかり実施できる	講義 演習	5月13日 1月24日 13:30～15:45	レベルⅠ 2年目 既卒新採用者	63名
ベーシック教育	がん治療と看護	1) 手術療法ががん患者の心身に及ぼす影響についてアセスメントできる 2) 手術療法に伴う主な合併症の予防と術後回復を促進する援助ができる 3) 化学療法の基礎知識を習得する 4) 化学療法による副作用や合併症とそれに伴う心身の苦痛を理解できる 5) 放射線療法の基礎知識を習得する 6) 放射線療法による副作用とそれに伴う心身の苦痛を理解できる 7) IVRの特徴とがん治療におけるIVRの意義を知る 8) 内視鏡治療の基礎知識を習得する 9) 臨床試験の特徴と流れを知り、臨床試験における看護師の役割の重要性を理解できる	講義	2016.7.8(金) 8:40～16:40	レベルⅠ 2年目	52名
ベーシック教育	ケーススタディ	1) 「がんの基礎知識」「がん治療と看護」で学んだ知識を活用し、患者の病態生理や治療についてまとめることができる 2) 看護過程を展開し、実践した看護について考察することができる 3) 互いのケーススタディを共有し、学びを深めることができる 4) ケーススタディにおける学びから自己の課題を明確にできる	事例検討 発表	2016.11.29(火) 13:30～16:00	レベルⅠ 2年目	44名 *発表会 43名
ベーシック教育	リーダーシップ (メンバーシップ)	1) リーダーシップとメンバーシップの概念を理解できる 2) チームにおけるメンバーシップの重要性を理解できる 3) 自分がリーダーとなるうえでの課題を見出すことができる	講義 GW	2016.5.17(火) 14:30～16:30	レベルⅡ 3年目	32名
ベーシック教育	サポートケア -苦痛を和らげ、患者の力を引き出す看護-	1) がんサバイバーシップについて説明できる 2) がん患者のセルフケア支援の重要性と方法を述べることができる 3) がんと診断された時からの緩和ケアとトータルペインについて理解できる 4) 緩和ケアにおける看護師の役割を説明できる 5) がん患者に起こることが多い症状について、メカニズムや影響要因を理解し、対処方法を考えることができる 6) サイコオンコロジーの概要を知り、実践場面での活用を考える	講義 GW	2016.10.25(火) 8:30～16:30	レベルⅡ 3年目	34名
ベーシック教育	継続看護 -患者の意思と経過に寄り添い、リソースを効果的に活用する-	1) 継続看護の必要性を理解し、実践できる 2) 患者の意思決定に関わる看護師の役割を理解し、実践できる 3) チームアプローチの重要性を理解し、多職種につなぐことができる 4) がん患者に起こることが多い症状について、メカニズムや影響要因を理解し、症状マネジメントが実践できる 5) 患者・家族が退院後の療養生活において必要な支援を受けられるように、退院支援・在宅療養支援のニーズを早期に把握し、調整できる 6) 退院支援・在宅療養支援において必要な社会資源を理解できる 7) 実践した事例をまとめ、他受講生と情報共有することによって継続看護の知見を広げることができる	講義	2017.6.21(火) 8:30～16:30	レベルⅡ 4年目	23名
ベーシック教育	がん医療と看護倫理	1) 看護実践における倫理の基本的な知識・態度・考え方を理解できる 2) がん医療における倫理的課題を述べるができる 3) 倫理的課題を解決に導くための方法を知る 4) 倫理的課題についてチームで取り組むことができる 5) がん治療、療養過程において、患者・家族の権利を理解した意思決定支援ができる	講義	2016.11.1(火) 8:40～12:00	レベルⅢ 5～7年目	24名
ベーシック教育	成人教育	1) 看護職者の特徴を成人学習者の特徴と関連づけて説明できる 2) 専門職業人としての後輩育成の必要性を述べる 3) 教育的関わりに対する自己の課題を明らかにする 4) 新人看護師の特徴をふまえた効果的な指導計画を立てる 5) 成人学習者である新人看護師教育の実践プロセスを振り返り評価する 6) 新人看護師教育における今後の課題について述べる	講義	2017.1.16(月) 13:00～16:00	レベルⅢ 5～7年目	28名
ベーシック教育	がんのリハビリテーション	1) リハビリテーションの概念を理解できる 2) リハビリテーションが必要ながん患者の特徴を理解できる 3) 所属看護単位で実施できるリハビリテーションを見出すことができる	講義	2016.10.5(水) 17:45～19:00	レベル共通 全看護師	77名
ベーシック教育	看護を語る会	1) 実践を通して看護の役割について述べるができる 2) 自分の考える看護を言葉で表現できる 3) 他者と看護について語り合い、お互いを認め合うことを通して、日々の看護実践の意味づけができる	GW	2016.6.1(水) 2016.10.19(水) 2017.2.1(水) 17:30～18:30	レベル共通 全看護師	28名 15名 11名
ベーシック教育	急変患者のフィジカルアセスメントと対応	1) 各部署で起きたERコール事例あるいはそれに相当する事例(患者急変・緊急手術・ICU入室事例など)を取り上げ、急変につながる徴候の観察方法を理解できる 2) 事例患者の状態に応じたアセスメントの視点を述べる 3) 事例患者をもとにSBARIに沿って報告ができる 4) 事例を通して、各病棟で今後の強化すべき課題を述べる	看護単位内での演習 講義 GW	各看護単位 2016.7.1～11.28 全体演習 2016.10.11(火) 14:00～15:30	レベル共通 全看護師	20名
ベーシック教育	ベストプラクティス	1) 問題解決技法を学び、習得することができる 2) 看護師長、副看護師長とともに各看護単位で問題となっていることに気付き解決方法を見出すことができる 3) 各看護単位の問題に対し、見出した解決方法を実践することができる 4) 各看護単位に対する取り組みの評価ができる 5) 取り組みにあたり、集団の特性を踏まえた動機付けを行い、リーダーシップを発揮する。	講義 各看護単位内での討議	2016.7.6(水) 17:30～18:30 2016.7.23日(土) 8:30～17:15 2016.9.29日(木) 9:00～16:00 2017.2.23日(月) 17:30～19:00	レベルⅢ以上	38名

ベーシック教育	人財育成術	1) 組織における人財の重要性を理解し、教育が果たす役割を考えることができる 2) モチベーションを高める育成術について理解し、活用できる 3) 看護単位内における教育のリーダーとして目指す自分を見出すことができる 4) 教育のリーダーとして組織に貢献している意識を高め、役割の遂行に意欲を示す	講義 演習	2016.9.30(金) 9:30~16:30	教育担当者 又は将来的 に教育担当 者の役割を 担う予定の スタッフ	36名
ベーシック教育	臨床試験看護	1) 臨床試験の実施に必要な知識を習得する 2) 臨床試験における看護師の役割を考える 3) 臨床試験における当院の使命と実施状況を知る	講義	2016.11.1(火) 13:00~16:00	レベル共通 全看護師	24名
ベーシック教育	看護研究	1) 日頃の実践で疑問に思っていることから、研究テーマの糸口を見つけることができる 2) 関心のあるテーマに関する文献を検索し、入手する方法がわかる 3) 看護研究論文の読み方が理解できる 4) 看護研究を始める上で必要な研究倫理の概要を知ることができる	講義	2016.12.4(日) 9:00~15:30	レベル共通 全看護師	20名
がん看護専門教育(がん看護専門コース)	がん放射線療法看護	1) 放射線の基礎知識を理解できる 2) がん治療における放射線療法の意義と方法について理解できる 3) がん放射線療法に伴う急性期および晩期の有害事象とその対策について理解できる 4) がん放射線療法を受ける患者の看護ケアおよびセルフケア支援を理解できる 5) 事例を用い、放射線治療計画の理解に基づく有害事象対策とセルフケア支援を計画できる	講義	2016.7.20(水) 2016.7.21(木) 9:00~17:00	レベルⅡ4年目以上	23名
がん看護専門教育(がん看護専門コース)	がん化学療法看護Ⅰ	1) がん化学療法の特徴と看護師の役割について理解できる 2) がん化学療法目的、治療計画、レジメンを理解できることの意義を述べる ことができる 3) がん化学療法薬を安全に取り扱う必要性と曝露予防方法について理解できる 4) がん化学療法を受ける患者のアセスメント項目について理解できる 5) がん化学療法薬を確実・安全に投与するための留意点について理解できる 6) がん化学療法による副作用の対策とセルフケア支援について計画できる	講義	2016.9.16(火) 2016.9.17(水) 9:00~17:00	レベルⅡ4年目以上	19名
がん看護専門教育(がん看護専門コース)	がん化学療法看護Ⅱ	1) がん化学療法に用いられる薬剤の特徴と注意事項を理解できる 2) がん化学療法に用いられるレジメンのアセスメント項目について理解できる 3) レジメンを取り上げて、投与管理上の留意点、注意すべき有害反応とその予防策・対応策、セルフケア支援を計画することができる 4) がん化学療法における意思決定支援とチーム医療の重要性について考えることができる 5) がん化学療法を受ける患者と家族の看護実践において、学んだことを活用する上で自己の課題を明確にすることができる	講義	2016.9.8(木) 2016.9.9(金) 9:00~17:00	レベルⅡ4年目以上	10名
がん看護専門教育(がん看護専門コース)	緩和ケアⅠ	1) 疼痛のメカニズムに合った疼痛緩和方法を検討できる 2) がん性疼痛マネジメントに必要な薬物療法と副作用対策について説明できる 3) がん性疼痛マネジメントにおける非薬物療法を理解できる 4) がん性疼痛がある患者をトータルペインの視点でアセスメントし、計画立案 できる 5) 研修終了後、自己の臨床実践や指導に研修での学びをどのように活かして きたかを振り返り、今後の自己の課題を明確にすることができる	講義	2016.5.21(土) 9:00~16:45 2016.5.31(火) 17:30~19:00 2016.6.7(火) 17:30~19:00	レベルⅡ4年目以上	25名
がん看護専門教育(がん看護専門コース)	緩和ケアⅡ	1) トータルペインの考え方を理解し、事例をアセスメントすることができる 2) 疼痛以外の身体的苦痛とそのマネジメントについて理解できる 3) がん患者の心理反応や主な精神症状とケアの方法を理解できる 4) がん患者と家族との基本的なコミュニケーションスキルを理解できる 5) 緩和ケアにおけるリハビリテーションについて理解できる 6) 緩和ケアにおける医療連携・社会資源の活用について理解できる	講義	2016.9.14(水) 2016.9.15(木) 9:00~17:10	レベルⅡ4年目以上	19名
がん看護専門教育(がん看護専門コース)	退院支援・在宅療養支援	1) がん患者の退院支援・在宅療養支援の特徴とプロセスを説明できる 2) がん患者の療養の場の特徴と意思決定支援について説明できる 3) がん患者の退院支援・在宅療養支援に必要なアセスメント項目を列挙できる 4) 退院支援・在宅療養支援における症状マネジメントの考え方と方法を説明 できる 5) 退院支援・在宅療養支援における日常生活の調整委の考え方と方法を説明 できる 6) 退院支援・在宅療養支援における家族ケアについて説明できる 7) 退院支援・在宅療養支援で活用できる診療報酬と社会福祉資源について 概説できる 8) 退院支援・在宅療養支援における多職種とのチームアプローチと看護師の 役割を説明できる	講義	2016.10.13(木) 2016.10.14(金) 9:00~17:00	レベルⅡ4年目以上	32名
がん看護専門教育(がん看護専門コース)	リンパ浮腫ケア	1) リンパ浮腫発症のメカニズム、症状、合併症などの基礎知識が理解できる 2) 複合的理学療法を用いたケアの根拠について説明できる 3) リンパ浮腫発症の予防行動が指導できる 4) リンパ浮腫に対するセルフドレナージが指導できる 5) リンパ浮腫ケアの適応・禁忌について説明できる 6) 終末期患者の浮腫に対する目標が設定できる 7) 終末期患者の浮腫による苦痛緩和方法を検討できる	講義 演習	2016.10.15(土) 9:00~16:25 2016.10.24(月) 17:45~19:15 2016.10.31(月) 17:45~19:15	レベルⅡ4年目以上	18名
がん看護専門教育(がん看護専門コース)	皮膚・排泄ケア	1) 創傷治癒過程と褥瘡発生メカニズム、褥瘡分類について理解できる 2) 褥瘡のリスクアセスメントおよび褥瘡状態の評価ができる 3) 褥瘡予防ケア方法(圧・ズレのコントロール、スキンケア)を理解できる 4) 褥瘡局所治療の考え方と治療に用いる薬剤やドレッシング材の概要が理解 できる 5) 体圧分散寝具の選択、ポジショニングなどを根拠に基づいて実施できる 6) がん患者に起こりやすい症状へのスキンケアについて理解できる 7) がん患者の治療や進行に伴う創傷ケアについて理解できる 8) 事例を用いて、創傷ケアを受ける患者・家族のセルフケア支援について展 開できる	講義 演習	2016.10.22(土) 9:00~16:30 11月3日(木) 9:00~12:10	レベルⅡ4年目以上	19名

がん看護専門教育(がん看護専門コース)	摂食・嚥下障害看護	1) 摂食・嚥下にかかわる解剖学的知識、メカニズム、症状、合併症などの基礎知識を理解できる 2) 患者・家族にとって食の意義、口腔ケアの方法などを理解できる 3) 摂食・嚥下機能の検査と診断・評価法を理解できる 4) 誤嚥性肺炎、栄養低下、脱水などを予防し、摂食・嚥下障害の増悪を防止するなどのリスク管理の方法を理解できる 5) 摂食・嚥下訓練の方法を理解し、訓練内容を検討できる 6) 摂食・嚥下障害のある患者の看護過程の展開ができる	講義	2016.11.19(土) 9:00~16:30 2016.11.30(水) 18:00~19:00 2016.12.12(月) 18:00~19:30	レベルⅡ4年目以上	10名
がん看護専門教育(がん看護専門コース)	せん妄ケア	1) せん妄の基礎知識を習得できる 2) せん妄の症状評価や対応について説明できる 3) せん妄ケアに関する自部署の課題を明確にすることができる 4) せん妄ケアプログラムを導入するための考え方と方法を理解できる 5) 事例を通して、せん妄ケアが実践できる 6) せん妄ケアに関する自部署の課題解決のための取り組みが実施できる	講義	2016.10.26(水) 17:40~19:10 2016.11.13(日) 9:00~15:00 2016.12.9(金) 2017.1.30(月) 17:40~19:10	レベルⅡ4年目以上	19名
がん看護専門教育(がん看護専門コース)	コミュニケーションスキル	1) がん患者と家族の心理的特徴を理解できる 2) がん患者と家族とのコミュニケーションの重要性を理解できる 3) がん患者と家族とのコミュニケーションに必要なスキルを理解し、ロールプレイで実施できる 4) 自己のコミュニケーションスタイルを自覚する 5) コミュニケーションスキルを活用した看護実践について考える	講義	2017.1.15(日) 9:00~17:10 2017.1.28(日) 9:00~15:40	レベルⅡ4年目以上	18名
看護管理者研修	看護管理研修「論理的文章の書き方-基礎編-」	1) 感想文と論理的文章の違いを理解する。 2) 論理的でわかりやすい説明のコツを身につけることができる。 3) 文章を作成する際に見やすさを意識することができる	講義	2016.6.23(木) 17:45~19:15	看護師長・副看護師長	94名
看護助手研修	医療安全:患者搬送	安全・安楽かつ確実な患者搬送について理解することができる	講義 演習 GW	2016.5.20(金) 2016.5.22(日) 14:00~15:00	看護助手 (土日勤務者)	28名 (5名)
看護助手研修	ボディメカニクス	ボディメカニクスに基づいた看護助手業務について理解できる	講義 演習 GW	2016.11.25(金) 2016.11.27(日) 15:00~16:00	看護助手 (土日勤務者)	32名 (6名)

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 西田 俊朗
管理担当者氏名	医療安全管理室長：片井 均 看護部長：那須 和子 薬剤部長：寺門 浩之 統括事務部長：長谷川 博 医事課長：後藤 福司 医事室長：出田 剛一

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務部
		各科診療日誌	総務部
		処方せん	薬剤部
		手術記録	医事課
		看護記録	看護部
		検査所見記録	医事課
		エックス線写真	放射線部門
		紹介状	医事課
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課
		高度の医療の提供の実績	医事室
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究企画課
		高度の医療の研修の実績	教育連携係
		閲覧実績	総務課、医事課
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事室
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
			診療に関する患者記録は全て（入院、外来問わず）一患者一ファイル方式で管理。 (1) 診療録等は永久保存 (2) 内視鏡フィルム、10年保存 (3) フィルム（内視鏡フィルム除く）、5年保存 (4) 病理、細胞診プレパラート、20年保存 診療録の院外への持ち出しについては、原則禁止。例外的に持ち出す際は、リスクレベル評価に応じたセキュリティ対策を講じる。
			保管を管轄する各部門が、部門システムあるいは台帳等により管理
			保管を管轄する各部門が、部門システムあるいは議事録や台帳等により管理。規定遵守による体制維持に努めている

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御室
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御室
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御室
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室および 放射線部門 臨床検査部門 臨床工学部門
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	放射線部門 臨床検査部門 臨床工学部門
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	放射線部門 臨床検査部門 臨床工学部門	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	放射線部門 臨床検査部門 臨床工学部門	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理室
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理室
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理室 診療の質管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理室
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理室
職員研修の実施状況	医療安全管理室		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	総務課長・医事室長	
閲覧担当者氏名	文書管理係長・医事係長	
閲覧の求めに応じる場所	総務部総務課・財務経理部財務経理課医事室	
閲覧の手続の概要		
『独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律(平成13年12月5日法律第140号)』及び『独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律施行令(平成14年6月5日政令第199号)』に基づき以下の当センター規定に則り閲覧を含む開示手続きを行う。 ・独立行政法人国立がん研究センター情報公開手続規程(平成22年4月1日規程第49号) ・独立行政法人国立がん研究センター情報公開手数料規程(平成22年4月1日規程第48号) ・独立行政法人国立がん研究センター情報公開審査基準(平成22年4月1日規程第50号)		
具体的には、総務部総務課を情報公開窓口として、以下の手続きを行う。		
①開示請求者より、法人文書開示請求書(規定様式)の提出と手数料の支払いが行われる。		
②①に不備がある場合は、補正依頼公文(規定様式)を送付する。		
③請求文書の特定と開示可否の審議を行い、審議結果に応じて、法人文書開示決定通知書又は法人文書不開示決定通知書を開示請求者に送付する。		
④請求の内容により、期限の延長又は事案の移送が必要な場合は、それぞれ規定に基づき通知公文を開示請求者に送付する。		
⑤③を受け、開示請求者が開示実施を希望する場合は、規定の実施方法等申出書を提出する。		
⑥⑤の実施方法等申出書及び開示実施に係る規定手数料を受け、文書の開示を実施する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1) インフォームド・コンセントについて2) 意識改革及び啓発を図るための教育・研修及び講演会について3) インシデント・アクシデント報告と再発防止策の実施について4) アクシデント発生時の対応について5) 患者等からの医療に係る苦情・相談の対応について6) 前述の1) から5) を遂行するための組織及び体制について7) 本指針の患者・家族への提示等による周知について	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理室へ報告されるインシデント・アクシデント事例、有害事象事例について、月1回医療安全管理部会で原因分析や再発防止対策、業務改善事項の検討をしている。</p> <p>その後、病院長が委員長である医療事故等防止対策委員会（月1回）に報告・承認後、決定事項を医療安全担当副院長から、リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議（月1回）にてリスクマネージャー・サブリスクマネージャーに伝達し、所属職員に周知徹底を図っている。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年2回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p><全職員研修：医療安全講演会></p> <p>第1回「他病院における医療安全管理活動の概要」（H28.7.26）</p> <p>第2回「解説 インシデント事例集～過去の事例から学び、危険予知能力を高めよう～」（H28.10.18）</p> <p>* 年2回受講率 100%（DVD上映・閲覧含む）</p> <p><その他勉強会></p> <p>「MRI磁場体験研修」「一次救命処置研修」「特定機能病院承認要件見直しに係る医療安全研修会」等、各部門と協力し、個別に勉強会を計7回実施。</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>医療安全管理体制の確立・医療安全管理のための具体的方策及び医療事故発生時の対応方法等について、医療事故等防止安全管理規程を定め、医療事故等防止対策委員会、医療安全管理部会を設置。また、各診療科・各看護単位・各部門にリスクマネージャーを配置している。</p> <p>インシデント・アクシデントが発生した場合は、電子カルテにログインして起動するインシデント報告分析支援システム（略称CLIP；有害事象報告を含む）を通じて、各部署より医療安全管理室に報告される体制。</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>リスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議での説明・指示・伝達（月1回）</p> <p>インシデント防止目標の提示（隔月）</p> <p>医療安全ニュースの発行（月1回）</p> <p>職員全員参加の研修会の実施（年2回）</p> <p>医療安全ポケットマニュアル（約200頁からなり、全職員携行を義務付け）の年1回の更新事例集の発行（年1回）</p>	

○過去3年間の報告件数（インシデント・アクシデント）：

平成28年度 4012件

平成27年度 3547件

平成26年度 3220件

○過去3年間の報告件数（診療関連重篤有害事象）：

平成28年度 282件

平成27年度 278件

平成26年度 113件

（注）前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・指針の主な内容： 感染対策の基本的考え方、院内感染対策体制の整備(院内感染対策委員会、感染制御室、感染対策チーム、感染制御室長、院内感染管理者、感染制御室専任医師の設置)、職員に対する研修に関する基本方針、感染症の発生状況の報告に関する基本方針、院内感染発生時の対応に関する基本方針、患者等への情報提供と説明に関する基本方針、その他、院内感染対策推進のために必要な基本方針について。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・活動の主な内容： 院内感染発生動向の監視と効率的な院内感染対策が実施できるように、感染制御室および感染対策チームの活動支援を行う。感染制御室、感染対策チームで検討した課題や提案された事項について審議、決定を行う。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 2 回
・研修の主な内容： <全職研修：院内感染対策講演会> 第1回「感染制御の基本と最近のトピックス」(H28.5.28) 東京医療保険大学副学長 大久保憲 先生 第2回「感染上重要な病原体とその対策」(H28.11.7) 当院感染制御室 馬場尚志 感染制御室長 延べ参加人数 2,554名、受講率：第1回100%、第2回100% (イントラネット視聴・DVD視聴を含む) <その他> 実技確認の機会として「感染対策実技トレーニング」(年4回および各部門での開催)など	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・病院における発生状況の報告等の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無) 院内感染上重要な病原体の検出時には、微生物検査室から担当医とともに感染制御室に電話連絡され、患者の状態を把握後、当該部署に必要な対応について指示している。 病院長には週に2回、感染制御室長もしくは院内感染管理者が院内の状況を日報として報告している。これらをまとめ毎月の染対策委員会に報告している。 アウトブレイクが疑われた場合は、速やかに調査・状況把握を開始し、必要に応じて臨時院内感染対策委員会を招集するとともに、全職員対象メールやリスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議を通じて院内全体に対応を周知する体制としている。重大なアウトブレイク発生時などには、保健所など外部機関に報告・相談し、速やかな終息および再発防止を図る体制となっている。	
・その他の改善のための方策の主な内容： 流行性ウイルス性疾患について職員におけるワクチンポリシーを整備し、抗体検査結果およびワクチン接種状況を把握するとともに、抗体価が基準を満たさない職員に対するワクチン接種を推進している。 院内PHSによる感染症診療に関するコンサルテーション体制を整備するとともに、血液培養陽性例は全て感染症医が治療内容を確認し、抗菌薬適正使用を推進している。	

(注) 前年度の実績を記入する

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年3回
<p>研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスク薬について (2016/ 7/21 18:00～) ・当院における未承認・適応外・禁忌の取扱いと管理について (2016/11/22 18:00～) ・注射薬配合変化、簡易懸濁法 (2017/ 2/6 18:00～) 	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>手順書の作成 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>業務の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬事委員会による医薬品の採用検討と採用薬整理 ・医薬品の適正な購入及び各種規制を遵守した適正な管理 ・病棟常備薬の適正な配置と保管・管理状況の把握および指導 ・外来及び入院患者の処方薬の調剤及び指導 ・入院患者への医薬品の使用 ・医薬品情報の収集・管理・提供 ・持参薬鑑別による情報収集と管理 	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>医薬品に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/>有・無)</p> <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病棟薬剤師による各病棟への医薬品安全使用に関する情報周知の徹底 ・安全性速報（ブルー・イエローレター）の院内周知の徹底 ・薬剤部HP・コンテンツの改善 ・投与時に注意が必要な薬剤に対する注意喚起を目的とした薬袋のコメント表記の工夫 ・複数規格のある薬剤の規格の取り違い防止を目的とした表示名称の工夫 ・同種同効薬の採用に際し、安全使用を目的として力価・包装等の院内資料を作成し配布 ・調剤（分包紙等）の文字サイズとレイアウトを医療安全の観点から変更 ・ハイリスク薬に対する注意喚起のため、処方箋表記と院内配置薬の表示を変更してハイリスク薬であることを明示 ・後発医薬品への切り替えに当たり、安全使用を目的として医薬品名の表示に先発医薬品名を付記 ・職業曝露防止や適正な無菌混合調製を目的とした、休日体制下での抗がん剤無菌調製業務の実施 ・適応外使用、未承認薬使用の把握及び申請における管理 ・院内製剤の採用検討及び各科共通部分の同意説明文書作成 ・レジメン審査の管理 ・医薬品マスター（HIS、部門システム）の作成、削除、変更 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

<放射線部門>

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年3~4回
・研修の主な内容： 新規導入医療機器設置後、定期点検後、バージョンアップ後について、使用方法、注意点、管理方法について実施。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・計画の策定 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無) ・保守点検の主な内容： 職員による日常点検実施と、メーカーによる定期点検の計画・実施・報告	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・医療機器に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無) ・その他の改善のための方策の主な内容： ・メーカーによる定期点検の実施・職員による日常点検状況の把握 ・修理・故障報告件数・内容のデータ管理 ・PMDAメディナビ、医薬品医療機器等安全性情報(厚労省)、機器メーカーより安全性に関する緊急通知等を入手次第、関係職員への報告する体制をとっている ・使用マニュアルの改訂 ・勉強会の実施 ・PMDAへの報告 ・医療安全管理室と連携し、MRI磁場体験の開催 ・放射線治療に至るまでの全体的な行程を理解する放射線治療行程研修を開催	

(注) 前年度の実績を記入すること。

<臨床検査部門>

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年10回程度
・研修の主な内容： ・新規検査機器導入時、試薬変更時、検査の院内導入時における測定方法や注意点などについて実施。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・医療機器に係る計画の策定 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無) ・保守点検の主な内容： ・ISO15189:2012規格に準じたメーカーによる定期点検計画の実施・作業報告書の保管 ・スタッフによる日常点検の実施および実施記録の保管	

④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無) ・その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1) 日常点検の実施 2) 定期点検の実施 3) 機器操作手順書の整備・改訂 4) 日当直業務実施のためのトレーニング 5) 勉強会の実施 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

<臨床工学部門>

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年105回
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の主な内容： 補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器等の特定保守管理機器を中心に研修計画を立て、使用方法、管理方法、注意事項、不具合対応について実施。新規導入医療機器についても導入時、バージョンアップ後等必要に応じて実施。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器に係る計画の策定 (<input checked="" type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無) ・保守点検の主な内容： 除細動器、人工呼吸器、補助循環装置、血液浄化装置、電気メス、シリンジ・輸液ポンプ、モニタ類等について、機器購入時に計画を立て、臨床工学技士またはメーカーによって日常点検、定期点検を実施。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/>有 <input type="checkbox"/>無) ・その他の改善のための方策の主な内容： PMDAやメーカー、医療安全管理室より情報を収集し、勉強会（説明会）の開催、ニュース（医療安全とICTと協力）発行、使用マニュアル改訂、現場管理者へ通知、各会議等で周知して改善している。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
<ul style="list-style-type: none">・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況<ul style="list-style-type: none">・医療安全管理責任者として、医療安全担当副院長を任命済み。・医療安全管理室の室長と医療機器安全管理責任者を兼務し、医療事故等防止対策委員会には副委員長として出席している。 また、医薬品安全管理責任者から、報告を受ける体制が構築されている。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (4 名) ・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 <ul style="list-style-type: none">・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況<p>医薬品情報の収集・管理・提供は主として薬剤部医薬品情報管理室にて行っており、周知は定期的 (月 1 回) な医薬品情報誌の発行、 (年 1 回) 医薬品集の発行、タイムリーなお知らせ文書の発行等を、印刷物・メール・イントラネット掲載等を利用して行っている。</p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況<p>院内で使用する医薬品は薬剤部で一元管理する体制をとっており、医薬品の適応外使用については、薬事委員会 (適応外使用小委員会) で審査・報告等を行い、病院長の許可を得て使用をしている。未承認医薬品の使用については、高難度新規医療技術等評価委員会 (未承認薬使用小委員会) で審査・報告等を行なう体制としている。また、平成 28 年 10 月より、未承認医薬品使用、適応外使用、禁忌の使用について、所定の手続きを行っていない処方例について、薬剤師が把握した情報を集約する体制を整えた。</p>・担当者の指名の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有 ・無)・担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属：診療の室管理室 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有 ・無
<ul style="list-style-type: none">・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="checkbox"/>有 ・無)・規程の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1) 目的、2) 患者に説明する義務、3) 説明義務内容、4) 治療・検査等に関する義務、5) 入院・退院に関する説明、6) 療養指導の説明、7) 治療効果の説明、8) 説明の担当者、9) 説明の相手方、10) 説明の留意点、11) 説明・同意文書の書式、11) 文書の記録と管理、12) IC 後の対応、13) 同意取得が困難な場合、14) 診療録への記載・医療を受ける者に対する説明に関する責任者として、医療安全担当副院長を任命済み。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 <input type="checkbox"/>
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>診療情報管理室において、退院時要約を含む診療録等の確認・管理を行い、診療統計の一部の算出を行っている。</p> <p>診療情報管理委員会において、診療録の監査等を実施している。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有 <input checked="" type="checkbox"/> ・ 無 <input type="checkbox"/>
<p>・ 所属職員：専従（ 6 ）名、専任（ ）名、兼任（ 4 ）名</p> <p>うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（ 3 ）名</p> <p>うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 1 ）名</p> <p>うち看護師：専従（ 3 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名</p> <p>うち診療情報管理士：専従（ 1 ）名</p> <p>うち事務員：専従（ 1 ）名</p> <p>* 医師の専任配属については、現在検討中（平成 32 年 3 月目途）。</p> <p>・ 各部署のリスクマネージャー：80 名</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査 （定期的な現場の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検） 2) 医療事故防止対策マニュアルの作成及び点検、見直し 3) 部門別に作成されているマニュアルの確認及び見直しの提言 4) インシデント・アクシデント・有害事象報告（インシデント・アクシデント・有害事象事例を体験した医療従事者が、その概要を記載した文書をいう。以下同じ）の収集、保管、分析、分析結果などの現場へのフィードバックと集計結果の管理、具体的な改善策の提案・推進とその評価（改善策の周知確認） 5) 医療安全管理に関する最新情報の把握と職員への周知（他施設における事故事例の把握等） 6) 医療安全に関する職員への啓発、広報（月間行事の実施など） 7) 医療安全に関する教育研修の企画・運営、教育研修の理解度確認 8) 医療安全管理に係る連絡調整 <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
平成 29 年 4 月設置予定
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無
（有・無）平成 29 年 4 月作成予定
- ・ 活動の主な内容：
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）平成 29 年 4 月設置予定

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
平成 29 年 4 月設置予定
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
平成 29 年 4 月作成予定
- ・ 活動の主な内容：
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）平成 29 年 4 月設置予定

⑨ 監査委員会の設置状況

有・無

- ・ 監査委員会の開催状況：平成 28 年 12 月 1 日設置
- ・ 活動の主な内容：
 - 1) 医療安全管理責任者、医療安全管理部門、医療事故等防止対策委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、その他監査委員会として必要と認めるものの業務の状況について病院長、その他監査委員会として必要と認めるものから報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を実施する。
 - 2) 必要に応じ、理事長又は病院長に対し、医療に係る安全管理についての是正措置を講ずるよう意見表明を行う。
 - 3) 1) 及び 2) に掲げる業務について、その結果を公表する。
- ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）* 公表を予定。
- ・ 委員名簿の公表の有無（有・無）
- ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法：病院ホームページ

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
大西 真	国立国際医療研究センター 病院長	○	特定機能病 院の医療安 全体制に精 通	有・ <input type="checkbox"/> 無	1
田島 優子	さわやか法律事務所 弁護士		法律関係に 精通	有・ <input type="checkbox"/> 無	1
眞島 善幸	NPO法人 パンキャンジャパン代表		患者団体の 役員として 医療問題に 精通	有・ <input type="checkbox"/> 無	2
荒井 保明	国立がん研究センター 理事長特任補佐		当院の前病 院長として 院内診療・医 療安全管理 体制を熟知	<input type="checkbox"/> 有・無	1
長谷川 博	国立がん研究センター 統括事務部長		当院の統括 事務部長と して病院の 体制・組織等 に精通	<input type="checkbox"/> 有・無	3

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：平成 28 年度 392 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：

インシデント・アクシデント報告：平成 28 年度 4012 件

有害事象報告：平成 28 年度 282 件

- ・医療安全管理委員会の活動の主な内容

死亡症例については、平成 27 年 6 月 12 日から、医事課から医療安全管理室へ、1 週間毎に全死亡患者リストを報告してもらう仕組みを構築した。その後、リストをもとに医療安全管理室で最終治療に関する説明・同意書の有無や診療内容の確認をし、複数の副院長によるカルテレビュー結果を病院長へ報告している。再調査となった場合、診療科への確認と医療安全管理部会での分析・対策立案を経て、医療事故等防止対策委員会へ報告・審議となる。

重大事例については、医療安全管理室での説明・同意書の有無や診療内容の確認し、医療安全管理部会での分析・対策立案を経て、医療事故等防止対策委員会へ報告・審議となる。

死亡症例、重大事例とも、医療事故等防止対策委員会にて承認された対策は、病院長による関係診療科への指導や、医療安全担当副院長からリスクマネージャー・サブリスクマネージャー会議にて伝達し、職員に周知徹底を図る体制となっている。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院への立入り (有・無)
- ・他の特定機能病院からの立入り受入れ (有・無)
- ・技術的助言の実施状況

平成 26 年から国立高度専門医療研究センターの病院間で医療安全相互チェックを現在も継続的に実施しているが、平成 28 年度には病院間の立入検査を行わなかった。

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況

安全管理に係る相談窓口として、相談支援センターが設置している。

患者へは院内ポスター提示。

リーフレット設置等により周知している。その後、相談支援センターから患者相談室へ対応依頼される仕組みがある。患者相談室では、相談支援センターや病棟等から相談等を受けた後、関係部署から事実関係等を聴取の上、対応を実施している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ <input checked="" type="checkbox"/> 有 ・ 無 ）
⑭ 職員研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> <全職員研修：平成 28 年度医療安全講演会> <ul style="list-style-type: none"> 第 1 回「他病院における医療安全管理活動の概要」（H28. 7. 26） 第 2 回「解説 インシデント事例集～過去の事例から学び、危険予知能力を高めよう～」 (H28. 10. 18) * 年 2 回受講率 100%（DVD 上映・閲覧含む） <その他 勉強会> <ul style="list-style-type: none"> 「MRI 磁場体験研修」「一次救命処置研修」「特定機能病院承認要件見直しに係る医療安全研修会」等、各部門と協力し、個別に勉強会を計 7 回実施。 ・ 教育研修の効果測定については、e-learning（当院の教育履修管理システム）を活用し、研修内容の理解度テストを実施している。
⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> 管理者、医薬品安全管理責任者は平成 29 年に研修を受講予定。 医療安全管理責任者、医療機器安全管理責任者は平成 30 年に研修を受講予定。

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・ <input type="checkbox"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 (参考) 公益財団法人日本医療機能評価機構 平成26年3月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

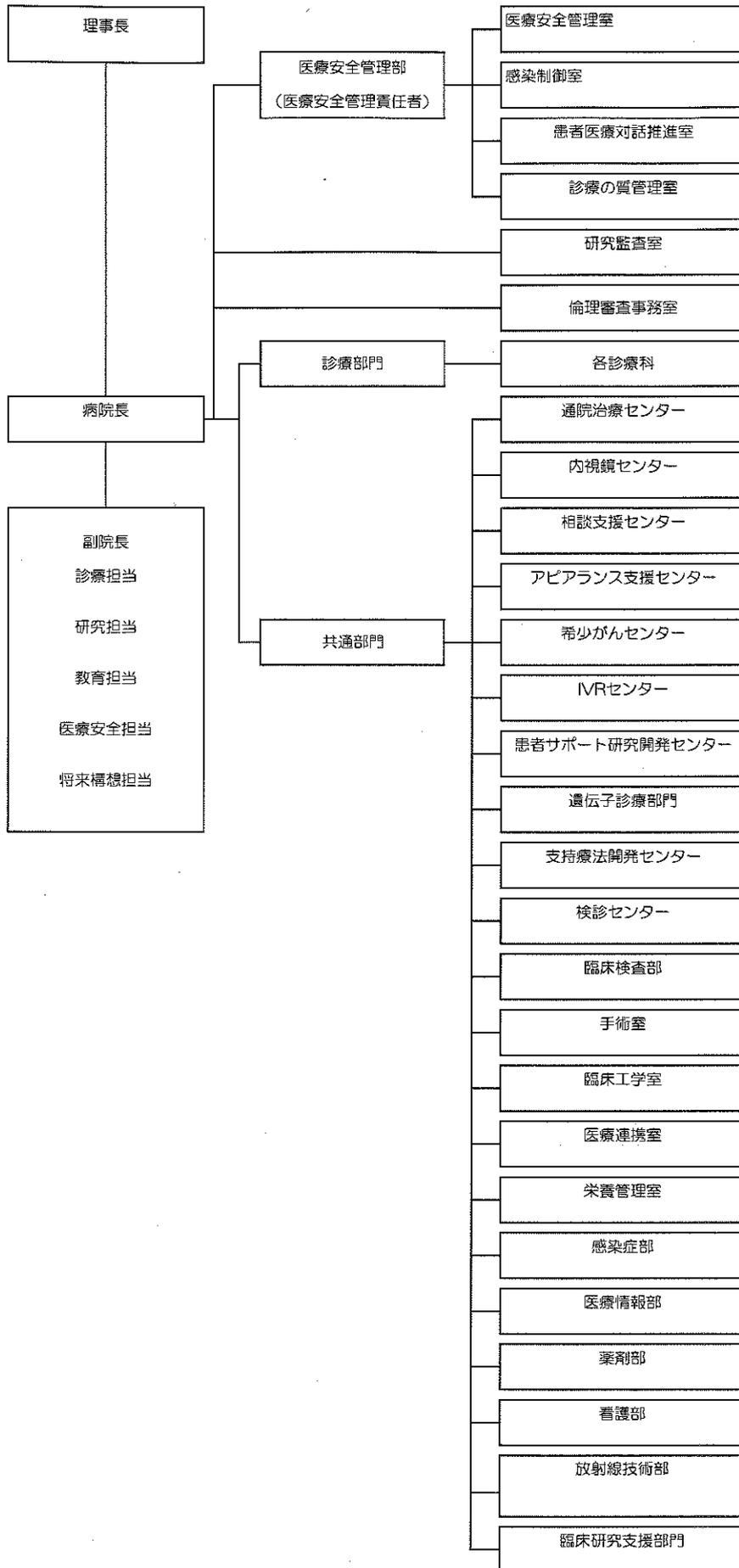
① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ・ホームページを通して各診療科で提供している医療、先進医療の提供状況、治験の実施状況、研究成果や新たな取り組みについて最新情報の随時公開を推進した。 ・がんに関する最新の知見や研究成果、科学的根拠に基づく診断・治療法について広く国民に情報提供を行うために、プレスリリース・記者会見を開催した。 ・患者向け広報誌を年4回発行し、中央病院で提供している医療、実績等の情報提供を行った。 ・年報、Annual Reportなど、当センターの業績集を作成し、大学、研究機関、拠点病院をはじめ関係各所に提供、幅広く当センターの診療や研究活動の紹介を行った。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 1. 主たる悪性腫瘍に対して開設されている内科・外科間の連携 ※組織図別添 2. 特化した治療 (放射線治療、放射線診断、内視鏡センター、通院治療センター等) と各診療科との連携 3. 複数の悪性腫瘍や、患者の状態によって診療科間における協力が必要な場合の連携 (転移がん、希少がん等) 4. その他	

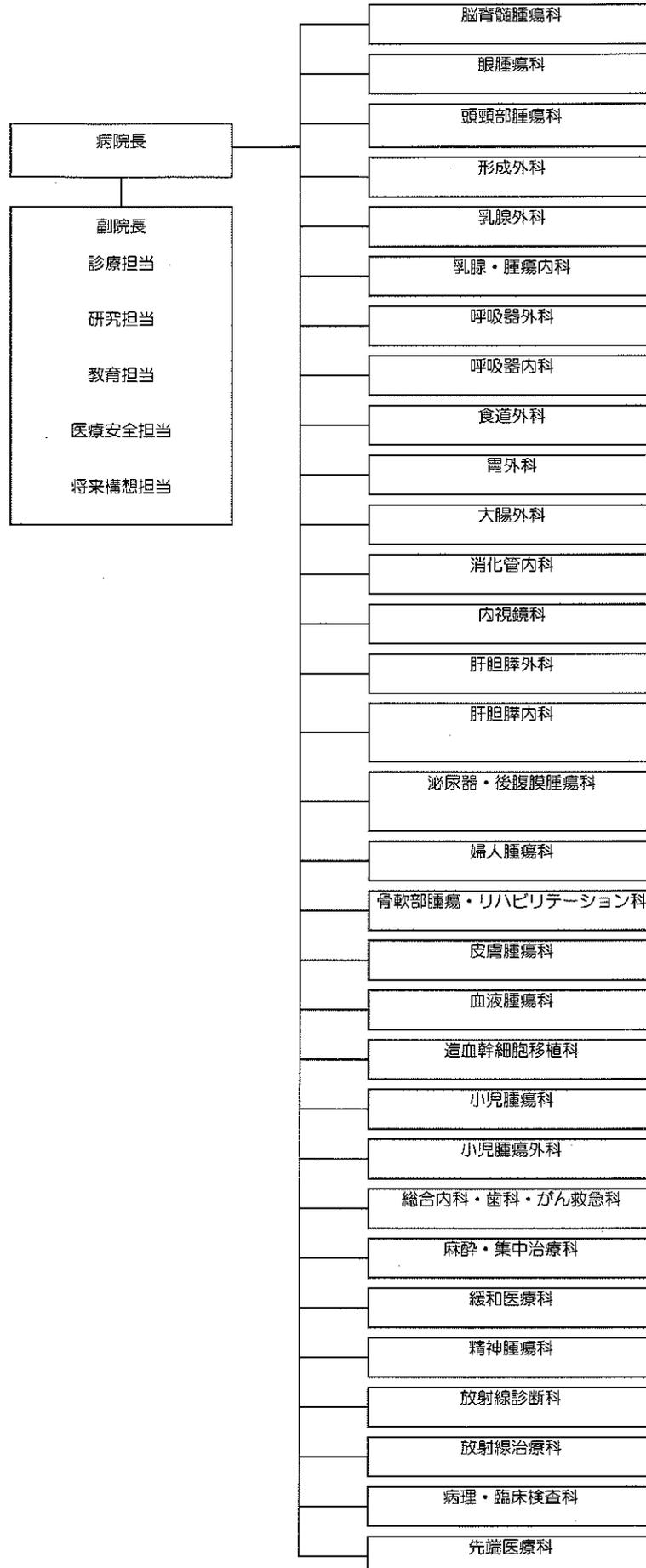
中央病院 組織図

2017年4月1日時点



中央病院 診療体制図

2017年4月1日時点



(様式第 8)

国がん 第 251-2 号
平成 29 年 10 月 2 日

厚生労働大臣 加藤 勝信 殿

国立研究開発法人国立がん研究センター
理事長 中釜 斉 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

・研修の実施状況

管理者、医薬品安全管理責任者は平成 29 年に研修を受講予定。

医療安全管理責任者、医療機器安全管理責任者は平成 30 年に研修を受講予定。

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（6）名、専任（ ）名、兼任（4）名

うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（3）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名

うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

・参 考

うち診療情報管理士：専従（1）名

うち事務員：専従（1）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

※医師の配属については、現在検討中（平成 32 年 3 月目途）